

子どもの生活状況調査の報告について

1 概要

子どもの貧困対策の推進に関する法律（平成25年法律第64号）第9条第2項に規定する市町村計画（以下「子どもの貧困対策計画」という。）の策定にあたり、その基礎資料を得るため、昨今の新型コロナウイルス感染症の影響を捉えつつ、0歳から高校生世代までの子どもを養育する家庭の支援ニーズを把握することを目的とし、子どもの生活状況調査（以下「本調査」という。）を実施したので報告する。

2 調査対象者及び調査方法

(1) 事業利用者調査

事業利用者に対し、事業アンケートと共に任意のアンケートを実施（QRコード付きのアンケート案内を郵送し、インターネット上にて回答）。

調査対象	配布数	回答数	回答率	対象となる子どもの年齢・年代
児童扶養手当受給者 (保護者)	490 世帯	72 世帯	14.7%	18歳に到達した最初の 3月31日までの児童
就学援助受給者 (保護者)	635 人	219 人	34.5%	小・中学生
就学援助受給者 (中学生本人)	353 人	71 人	20.1%	中学生

(2) 0歳から高校生世代までの子どもを養育する家庭への調査

上記(1)以外調査対象者を住民基本台帳から無作為に抽出しアンケートを実施（QRコード付きのアンケート案内を郵送し、インターネット上にて回答）。

調査対象	配布数	回答数	回答率	対象人口 (令和3年4月1日現在)	
保護者	就学前児童	1,500 人	628 人	41.9%	0～5歳 約12,300人
	小学生	1,500 人	594 人	39.6%	6～11歳 約11,800人
	中学生	900 人	311 人	34.6%	12～15歳 約5,000人
	高校生世代	900 人	310 人	34.4%	15～17歳 約4,300人
	保護者全体	4,800 人	1,843 人	38.4%	—
本人	中学生	900 人	218 人	24.2%	12～14歳 約5,000人
	高校生世代	900 人	216 人	24.0%	15～17歳 約4,300人
	本人全体	1,800 人	434 人	24.1%	—

3 調査項目

- (1) 事業利用者調査 保護者向け 主設問72問、付問39問
事業利用者調査 子ども向け 主設問31問、付問19問
- (2) 0歳から高校生世代までの子どもを養育する家庭への調査 保護者向け
主設問70問、付問35問
0歳から高校生世代までの子どもを養育する家庭への調査 子ども向け
主設問31問、付問19問

4 調査時期

- (1) 事業利用者調査
令和3年9月10日～令和3年10月5日
- (2) 0歳から高校生世代までの子どもを養育する家庭への調査
令和3年10月22日～令和3年11月15日

5 今後のスケジュール

- 令和4年 2月 議会報告（調査結果の報告）
- 3月 調査報告書納品

6 報告書（案）

別紙のとおり

7 その他

本調査の結果を元に、令和4年度子育て支援計画の中間見直しにおいて子どもの貧困対策計画を策定し、子育て支援計画に内包する予定である。

文京区 子どもの生活状況調査
報告書 (案)

令和4年3月

文京区

目次

第1章 調査の概要	1
1. 調査の目的	3
2. 調査の概要	3
(1) 0歳から高校生世代までの子どもを養育する家庭への調査	3
(2) 事業利用者調査	3
3. 調査時期	3
4. 報告書の見方	4
5. 調査項目	5
第2章 調査結果の詳細（保護者調査）	9
(1) 回答者の属性	11
(2) 区実施事業の利用状況	12
(3) 新型コロナウイルス感染症による自身への影響	19
(4) 家庭での体験の状況	22
(5) 子どもの体験の状況	26
(6) 家庭の家計状況	29
(7) 経済的理由で諦めた経験	31
(8) 子育てについての相談先の有無	37
(9) 子育てについて相談できる人（相談したい人）	38
第3章 調査結果の詳細（子ども調査）	39
(1) 世帯タイプ	41
(2) 区実施事業の認知状況	42
(3) 不安や悩みの有無	45
(4) 悩みごとや心配ごとの相談先	47
(5) 相談窓口について	48
第4章 資料（自由記載）	51
第5章 資料（調査票）	53

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

子どもの貧困対策の推進に関する法律(平成25年法律第64号)第9条第2項に規定する市町村計画(以下「子どもの貧困対策計画」という。)の策定にあたり、その基礎資料を得るため、昨今の新型コロナウイルス感染症の影響を捉えつつ、0歳から高校生世代までの子どもを養育する家庭の支援ニーズを把握するため、調査を実施する。

2. 調査の概要

(1) 0歳から高校生世代までの子どもを養育する家庭への調査(以下、「全体」という)

調査対象者を住民基本台帳から無作為に抽出し、郵送配布及びインターネット回収にて実施。

調査対象		配布数	回答数	回答率	対象人口(令和3年4月1日現在)
保護者	未就学児	1,500人	628人	41.9%	0~5歳 約12,300人
	小学生	1,500人	594人	39.6%	6~11歳 約11,800人
	中学生	900人	311人	34.6%	12~14歳 約5,000人
	高校生世代	900人	310人	34.4%	15~17歳 約4,300人
本人	中学生	900人	218人	24.2%	12~14歳 約5,000人
	高校生	900人	216人	24.0%	15~17歳 約4,300人

(2) 事業利用者調査(以下、「事業利用者」という)

事業利用者に対し、事業アンケートと共に任意のアンケートを郵送配付及びインターネット回収にて実施。

調査対象	配布数	回答数	回答率	対象となる子どもの年齢・年代
児童扶養手当受給者 (保護者)	490世帯	72世帯	14.7%	18歳に到達した最初の3月31日までの児童
就学援助受給者(保護者)	635人	219人	34.5%	小・中学生
就学援助受給者 (中学生本人)	353人	71人	20.1%	中学生

3. 調査時期

全体調査……………令和3年9月10日(金)~令和3年10月5日(火)

事業利用者調査……令和3年10月22日(金)~令和3年11月15日(月)

4. 報告書の見方

○図中の調査対象の記載は、以下の通り定義します。

- ①0歳から高校生世代までの子どもを養育する家庭の保護者……………全体調査保護者
- ②0歳から高校生世代までの子どもを養育する家庭の子ども本人…全体調査子ども本人
- ③児童扶養手当又は就学援助受給者の保護者……………事業利用者調査保護者
- ④児童扶養手当又は就学援助受給者の子ども本人……………事業利用者調査子ども本人

○本文、表、グラフなどに使われる「n」は、各設問に対する回答者数です。

○百分率(%)の計算は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示しました。したがって、単数回答(1つだけ選ぶ問)においても、四捨五入の影響で、%を足し合わせて100%にならない場合があります。

○複数回答(2つ以上選んでよい問)においては、%の合計が100%を超える場合があります。

○本文、グラフは、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合があります。

○本文中では、調査結果の数値は「%」、比較によるパーセントの差は「ポイント」という単位で表記をしています。

○回答者数が30未満の場合、比率が上下しやすいため、傾向を見るにとどめ、本文中では触れていない場合があります。

○平成30年度に実施した文京区子育て支援に関するニーズ調査(以下、「H30 ニーズ調査」という)と同様の調査項目については、時系列の変化について特徴等を記述しています。

5. 設問項目

<保護者調査>

設問番号※	設問内容	備考
問1	児童扶養手当又は就学援助 利用状況・利用のきっかけ、利用意向・該当しない（該当しなかった）理由・利用したくない理由	事業利用者調査のみ
問2	児童扶養手当又は就学援助の満足度	事業利用者調査のみ
問2-1	満足又は不満足の原因	事業利用者調査のみ
問3	本調査の回答者	共通設問
問4	子どもの人数	共通設問
問5	子どもの年齢	共通設問
問6	家族構成	共通設問
問7【1】	区の事業について 児童育成手当 利用状況・利用のきっかけ、利用意向・該当しない（該当しなかった）理由・利用したくない理由	共通設問
問7【2】	区の事業について 入学支度資金融資あっせん制度 利用状況・利用のきっかけ、利用意向・該当しない（該当しなかった）理由・利用したくない理由	共通設問
問7【3】	区の事業について 奨学資金の給付 利用状況・利用のきっかけ、利用意向・該当しない（該当しなかった）理由・利用したくない理由	共通設問
問7【4】	区の事業について 受験生チャレンジ支援貸付事業 利用状況・利用のきっかけ、利用意向・該当しない（該当しなかった）理由・利用したくない理由	共通設問
問7【5】	区の事業について 中学生学校外学習費用の助成 利用状況・利用のきっかけ、利用意向・該当しない（該当しなかった）理由・利用したくない理由	共通設問
問7【6】	区の事業について 学習支援 利用状況・利用のきっかけ、利用意向・該当しない（該当しなかった）理由・利用したくない理由	共通設問
問7【7】	区の事業について 子育て支援サービスの利用負担軽減 利用状況・利用のきっかけ、利用意向・該当しない（該当しなかった）理由・利用したくない理由	共通設問
問7【8】	区の事業について 母子家庭及び父子家庭自立支援事業 利用状況・利用のきっかけ、利用意向・該当しない（該当しなかった）理由・利用したくない理由	共通設問
問7【9】	区の事業について 母子および父子福祉資金 利用状況・利用のきっかけ、利用意向・該当しない（該当しなかった）理由・利用したくない理由	共通設問
問7【10】	区の事業について 子ども宅食 利用状況・利用のきっかけ、利用意向・該当しない（該当しなかった）理由・利用したくない理由	共通設問
問7【11】	区の事業について 子ども食堂 利用状況・利用のきっかけ、利用意向・利用したくない理由	共通設問
問8【A】	家庭での体験の状況 海水浴やプールに行く（コロナ前後）	共通設問
問8【B】	家庭での体験の状況 博物館・科学館・美術館などに行く（コロナ前後）	共通設問
問8【C】	家庭での体験の状況 キャンプやバーベキューに行く（コロナ前後）	共通設問
問8【D】	家庭での体験の状況 スポーツ観戦や劇場や映画館に行く（コロナ前後）	共通設問

設問番号※	設問内容	備考
問8【E】	家庭での体験の状況 遊園地やテーマパークに行く（コロナ前後）	共通設問
問8【F】	家庭での体験の状況 ファミリーレストラン等で外食をする（コロナ前後）	共通設問
問9 A	子どもの体験の状況 毎月お小遣いを渡す	共通設問
問9 B	子どもの体験の状況 毎年新しい洋服・靴を買う	共通設問
問9 C	子どもの体験の状況 習い事（音楽、スポーツ、習字等）に通わせる	共通設問
問9 D	子どもの体験の状況 学習塾に通わせる（または家庭教師に来てもらう）	共通設問
問9 E	子どもの体験の状況 お誕生日のお祝いをする	共通設問
問9 F	子どもの体験の状況 1年に1回程度家族旅行に行く	共通設問
問9 G	子どもの体験の状況 クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる	共通設問
問9 H	子どもの体験の状況 子どもの学校行事などに親が参加する	共通設問
問9 I	子どもの体験の状況 本や電子機器（タブレットやスマートフォン等）を買う	共通設問
問9 J	子どもの体験の状況 オンライン型の学習支援を受けさせる	共通設問
問10【1】	新型コロナウイルス感染症による自身への影響 収入が減った（減る見込みになった）	共通設問
問10【2】	新型コロナウイルス感染症による自身への影響 支出が増えた（増える見込みになった）	共通設問
問10【3】	新型コロナウイルス感染症による自身への影響 精神的に不安になることが増えた、イライラすることが増えた	共通設問
問10【4】	新型コロナウイルス感染症による自身への影響 夫婦・パートナーとの関係が悪化した	共通設問
問10【5】	新型コロナウイルス感染症による自身への影響 子どもに厳しく怒ったり叱った	共通設問
問10【6】	新型コロナウイルス感染症による自身への影響 子どもから強い反抗的な態度をされた	共通設問
問10【7】	新型コロナウイルス感染症による自身への影響 現在の就業状況	共通設問
問11	家庭の家計状況（コロナ前後）	共通設問
問12【1】	経済的理由で諦めた経験 衣類の購入（コロナ前後）	共通設問
問12【2】	経済的理由で諦めた経験 食料の購入（コロナ前後）	共通設問
問12【3】	経済的理由で諦めた経験 家賃の支払い（コロナ前後）	共通設問
問12【4】	経済的理由で諦めた経験 住宅ローンの支払い（コロナ前後）	共通設問
問12【5】	経済的理由で諦めた経験 電気料金の支払い（コロナ前後）	共通設問
問12【6】	経済的理由で諦めた経験 ガス料金の支払い（コロナ前後）	共通設問
問12【7】	経済的理由で諦めた経験 水道料金の支払い（コロナ前後）	共通設問
問12【8】	経済的理由で諦めた経験 電話料金の支払い（コロナ前後）	共通設問
問12【9】	経済的理由で諦めた経験 学習教材の支払い（コロナ前後）	共通設問
問12【10】	経済的理由で諦めた経験 遊びのための費用の支払い（コロナ前後）	共通設問
問12【11】	経済的理由で諦めた経験 その他経費の支払い（コロナ前後）	共通設問
問13	子育てについての相談先の有無	共通設問
問13-1	子育てについて相談できる人（相談したい人）	共通設問
	自由意見	共通設問

※事業利用者調査の設問番号

<子ども調査>

設問番号	設問内容	備考
問1	本調査の回答者	共通設問
問2	家族構成	共通設問
問3【1】	区の事業について 学習支援 認知状況・認知のきっかけ・利用意向	共通設問
問3【2】	区の事業について 中学生学校外学習費用の助成 認知状況・認知のきっかけ・利用意向	共通設問
問3【3】	区の事業について 受験生チャレンジ支援貸付事業 認知状況・認知のきっかけ・利用意向	共通設問
問3【4】	区の事業について 奨学金資金高等学校等の給付 認知状況・認知のきっかけ・利用意向	共通設問
問3【5】	区の事業について 入学支度資金融資あつせん 認知状況・認知のきっかけ・利用意向	共通設問
問3【6】	区の事業について こども食堂 認知状況・認知のきっかけ・利用意向	共通設問
問3【7】	区の事業について こども宅食 認知状況・認知のきっかけ・利用意向	共通設問
問4	不安や悩みの有無	共通設問
問5	悩みごとや心配ごとの相談先	共通設問
問6【1】	相談窓口について 教育センター「総合相談室」 認知状況・認知のきっかけ・利用意向・利用したくない理由	共通設問
問6【2】	相談窓口について 青少年プラザb-lab 教育センター 認知状況・認知のきっかけ・利用意向・利用したくない理由	共通設問
問6【3】	相談窓口について 自立相談支援窓口 認知状況・認知のきっかけ・利用意向・利用したくない理由	共通設問
問6【4】	相談窓口について 保健サービスセンター 認知状況・認知のきっかけ・利用意向・利用したくない理由	共通設問
問6【5】	相談窓口について 子ども家庭支援センター 認知状況・認知のきっかけ・利用意向・利用したくない理由	共通設問
問6【6】	相談窓口について 東京都児童相談センター 認知状況・認知のきっかけ・利用意向・利用したくない理由	共通設問
	自由意見	共通設問

第2章 調査結果の詳細（保護者調査）

(1) 回答者の属性 (調査回答者、子どもの人数、世帯タイプ)

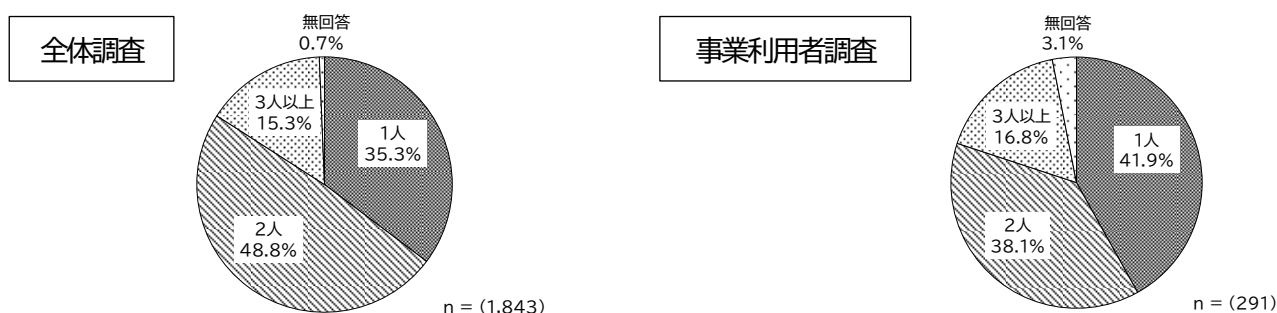
本調査の回答者は、全体調査では「父」が62.5%と最も多く、次いで「母」が36.5%となっている。事業利用者調査は「母」が77.7%と最も多く、次いで「父」が18.9%となっている。

<図表 調査回答者 (全体調査・事業利用者調査比較) >



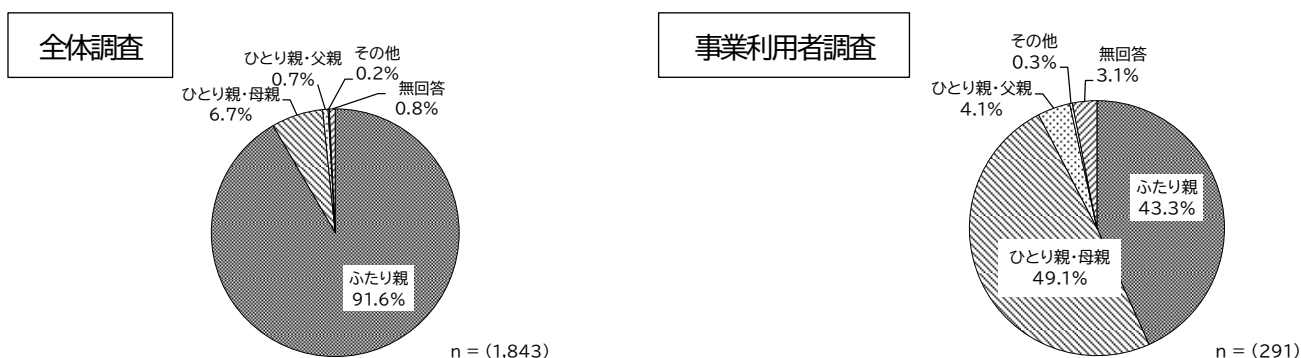
子どもの人数については、全体調査では「2人」が48.8%と最も多く約半数を占めており、次いで「1人」が35.3%となっている。事業利用者調査は「1人」が41.9%と最も多く、次いで「2人」が38.1%となっている。

<図表 子どもの人数 (全体調査・事業利用者調査比較) >



家族構成については、全体調査では「ふたり親」が91.6%と最も多くなっており、「ひとり親・母親」(6.7%)と「ひとり親・父親」(0.7%)をあわせた『ひとり親』は7.4%となっている。事業利用者調査は「ひとり親・母親」が49.1%と最も多くなっており、「ひとり親・父親」(4.1%)をあわせた『ひとり親』は53.2%と半数を超え、「ふたり親」は43.3%となっている。

<図表 世帯タイプ (全体調査・事業利用者調査比較) >



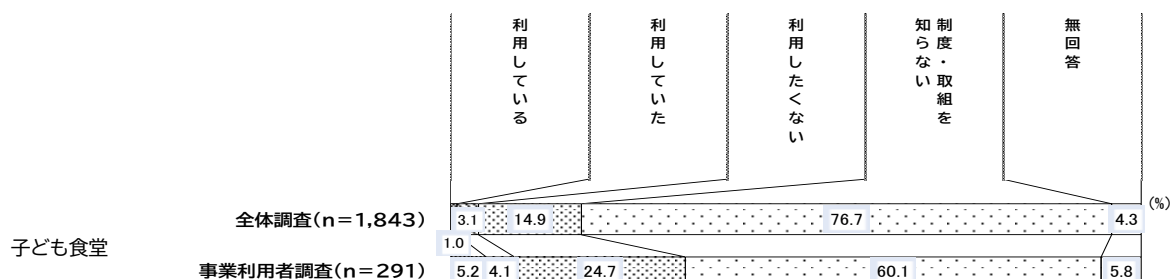
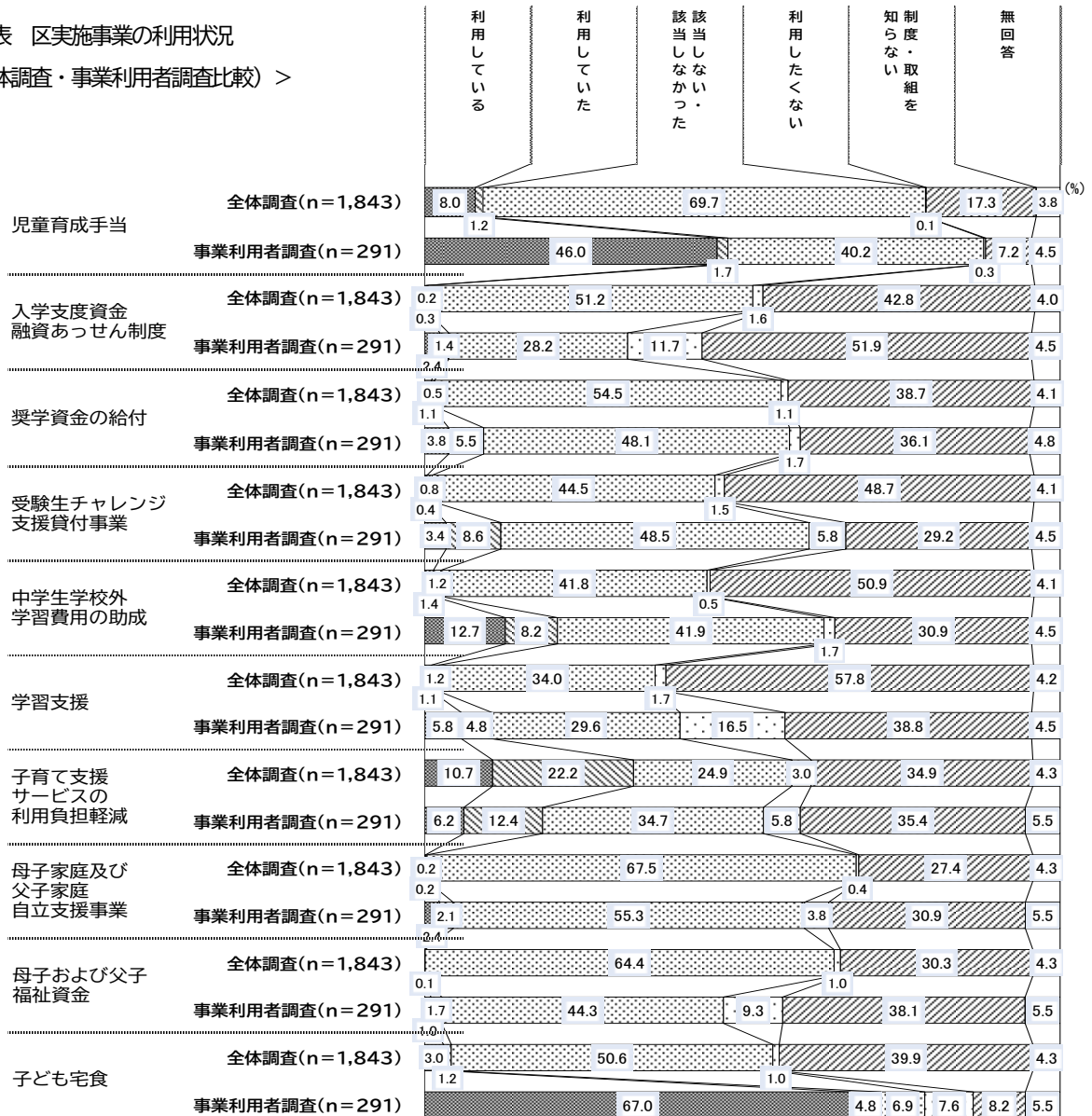
(2) 区実施事業の利用状況

【問】以下の取り組みについて、「利用状況」はそれぞれ1つずつ、「利用のきっかけ、利用意向」はそれぞれあてはまるものすべてに○を付けてください。

区実施事業の利用状況を尋ねたところ、「利用している」と「利用していた」をあわせた『利用者』は、全体調査では「子育て支援サービスの利用負担軽減」が32.9%と最も多く、次いで「児童育成手当」が9.2%となっている。事業利用者調査は「こども宅食」が71.8%と最も多く、「児童育成手当」が47.7%、「中学生学校外学習費用の助成」が20.9%、「子育て支援サービスの利用負担軽減」が18.6%と続いている。

<図表 区実施事業の利用状況

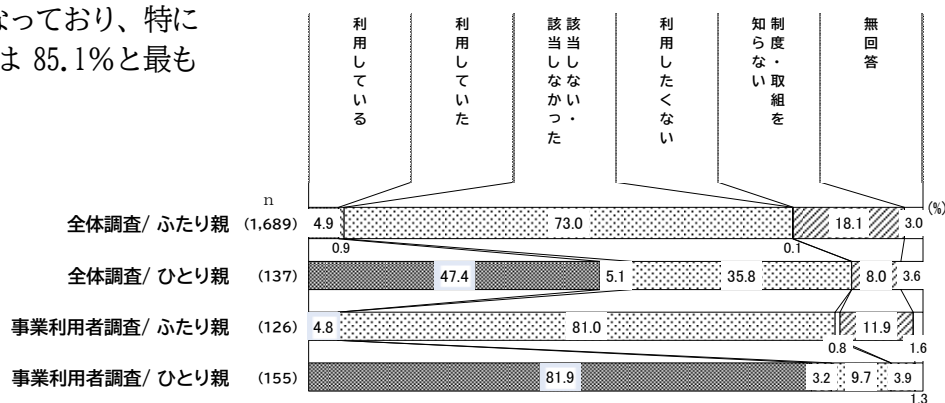
(全体調査・事業利用者調査比較) >



【1】児童育成手当 利用状況

児童育成手当の利用状況を世帯タイプ別にみると、『利用者』は、全体調査、事業利用者調査ともにひとり親の利用が高くなっており、特に事業利用者調査のひとり親では 85.1%と最も多くなっている。

<図表 児童育成手当の利用状況（世帯タイプ別）>

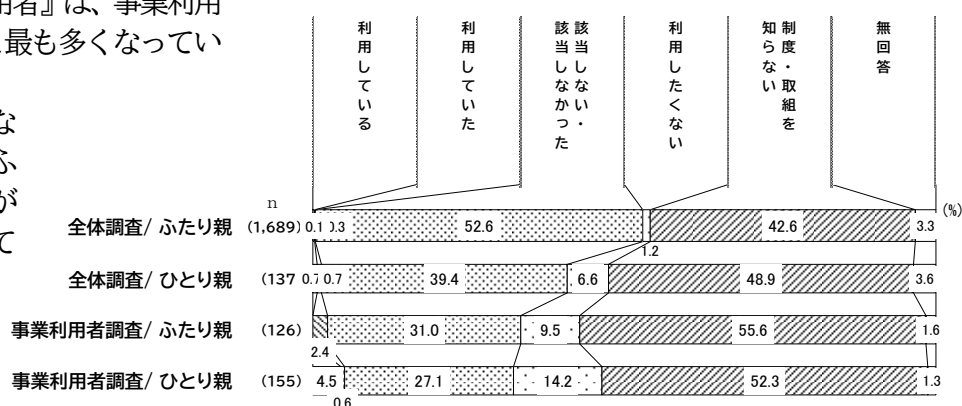


【2】入学支度資金融資あっせん制度 利用状況

入学支度資金融資あっせん制度の利用状況を世帯タイプ別にみると、『利用者』は、事業利用者調査のひとり親が 5.1%と最も多くなっている。

一方、「制度・取組を知らない」では、事業利用者調査のふたり親が 55.6%、ひとり親が 52.3%とともに半数を超えている。

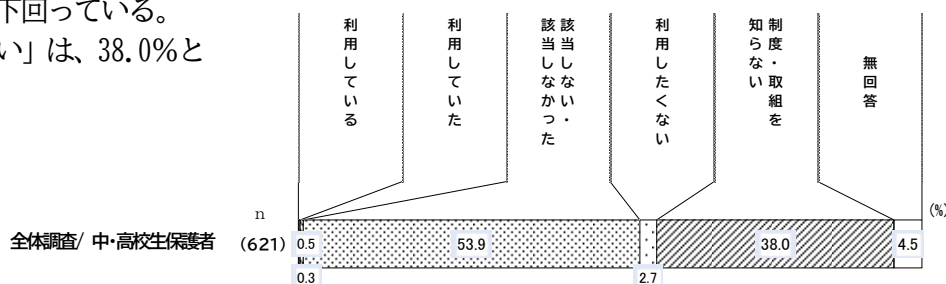
<図表 入学支度資金融資あっせん制度 利用状況（世帯タイプ別）>



全体調査について事業の対象者に絞って集計すると、『利用者』は1.0%を下回っている。

一方、「制度・取組を知らない」は、38.0%となっている。

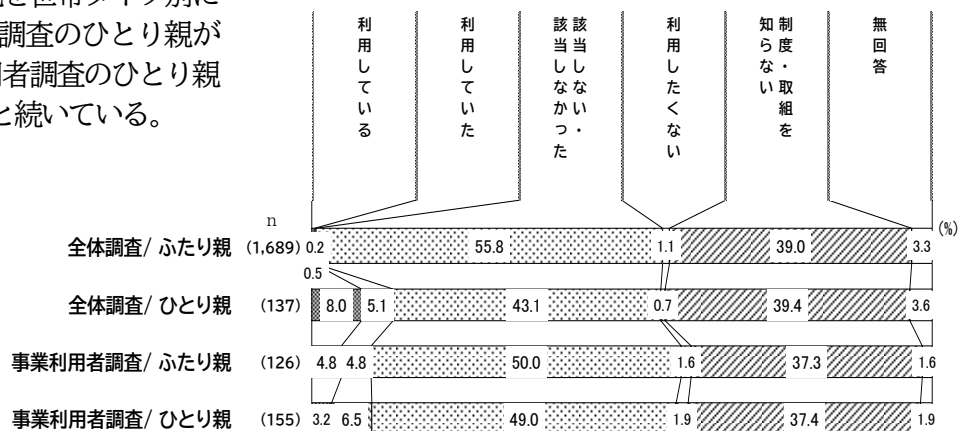
<図表 入学支度資金融資あっせん制度 利用状況（全体調査の対象者）>



【3】奨学資金の給付 利用状況

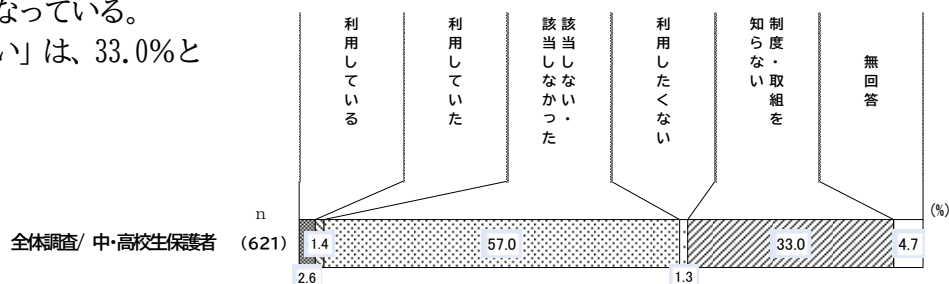
奨学資金の給付の利用状況を世帯タイプ別にみると、『利用者』は、全体調査のひとり親が13.1%と最も多く、事業利用者調査のひとり親が9.7%、ふたり親が9.6%と続いている。

<図表 奨学資金の給付 利用状況（世帯タイプ別）>



全体調査について事業の対象者に絞って集計すると、『利用者』は4.0%となっている。一方、「制度・取組を知らない」は、33.0%となっている。

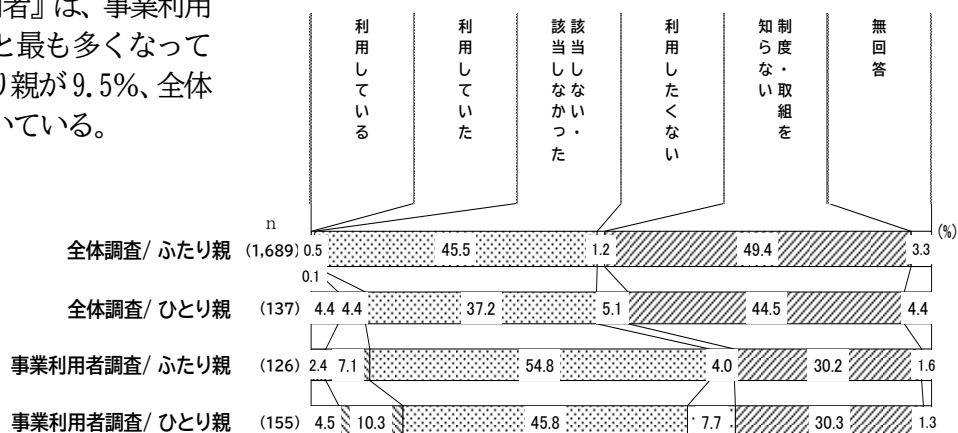
<図表 奨学資金の給付 利用状況（全体調査の対象者）>



【4】受験生チャレンジ支援貸付事業 利用状況

受験生チャレンジ支援貸付事業の利用状況を世帯タイプ別にみると、『利用者』は、事業利用者調査のひとり親が14.8%と最も多くなっており、事業利用者調査のふたり親が9.5%、全体調査のひとり親が8.8%と続いている。

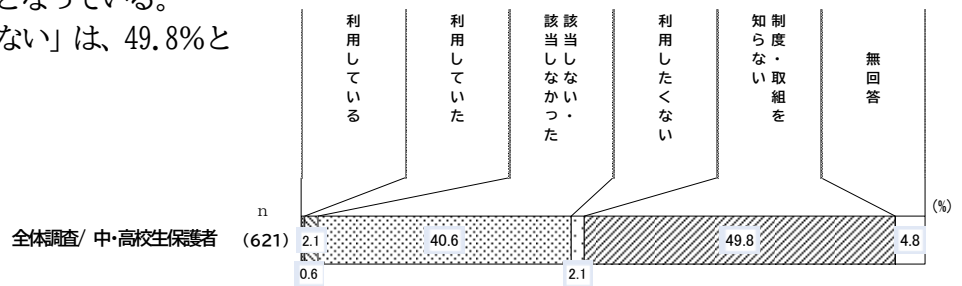
<図表 受験生チャレンジ支援貸付事業 利用状況（世帯タイプ別）>



全体調査について事業の対象者に絞って集計すると、『利用者』は2.7%となっている。

一方、「制度・取組を知らない」は、49.8%と約半数となっている。

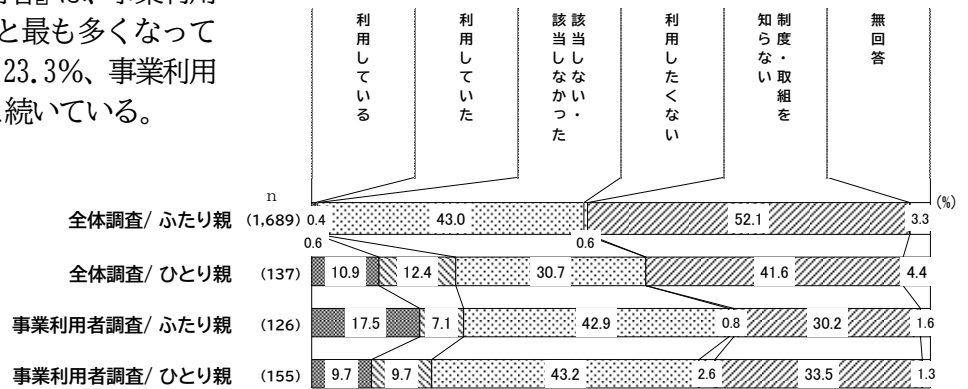
<図表 受験生チャレンジ支援貸付事業 利用状況（全体調査の対象別）>



【5】中学生学校外学習費用の助成 利用状況

中学生学校外学習費用の助成の利用状況を世帯タイプ別にみると、『利用者』は、事業利用者調査のふたり親が24.6%と最も多くなっており、全体調査のひとり親が23.3%、事業利用者調査のひとり親が19.4%と続いている。

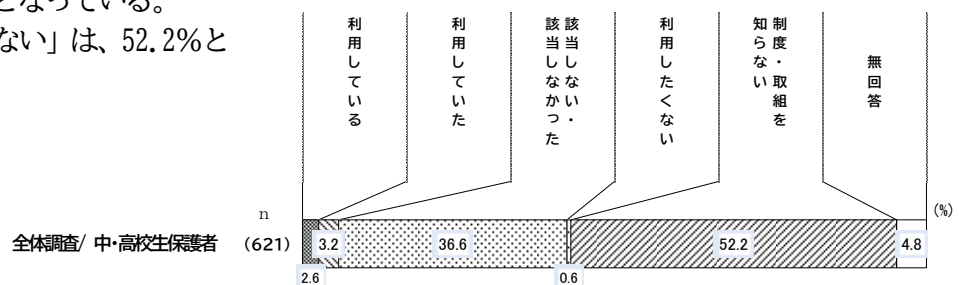
<図表 中学生学校外学習費用の助成 利用状況（世帯タイプ別）>



全体調査について事業の対象者に絞って集計すると、『利用者』は5.8%となっている。

一方、「制度・取組を知らない」は、52.2%と半数を超えている。

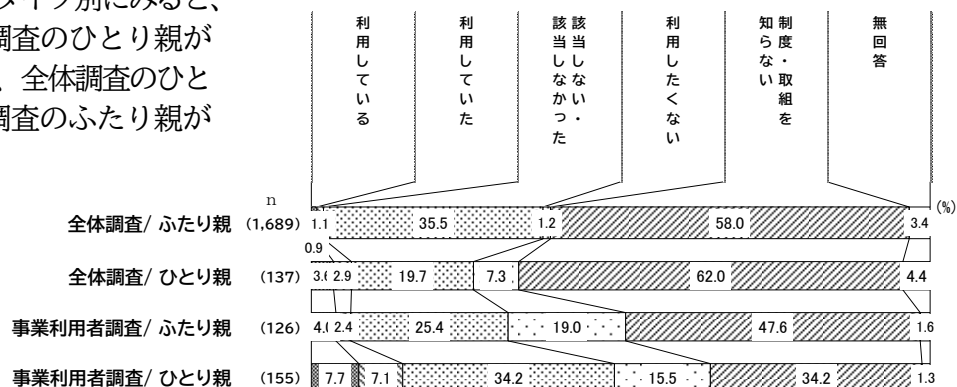
<図表 中学生学校外学習費用の助成 利用状況（全体調査の対象者）>



【6】学習支援 利用状況

学習支援の利用状況を世帯タイプ別にみると、『利用者』は、事業利用者調査のひとり親が14.8%と最も多くなっており、全体調査のひとり親が6.5%、事業利用者調査のふたり親が6.4%と続いている。

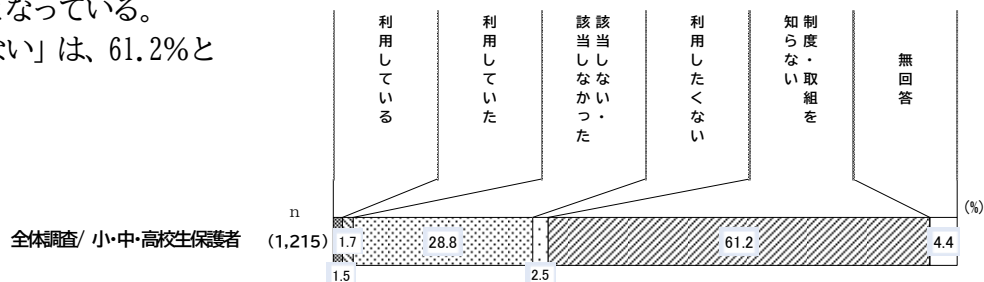
<図表 学習支援 利用状況（世帯タイプ別）>



全体調査について事業の対象者に絞って集計すると、『利用者』は3.2%となっている。

一方、「制度・取組を知らない」は、61.2%と半数を超えている。

<図表 学習支援 利用状況（全体調査の対象者別）>

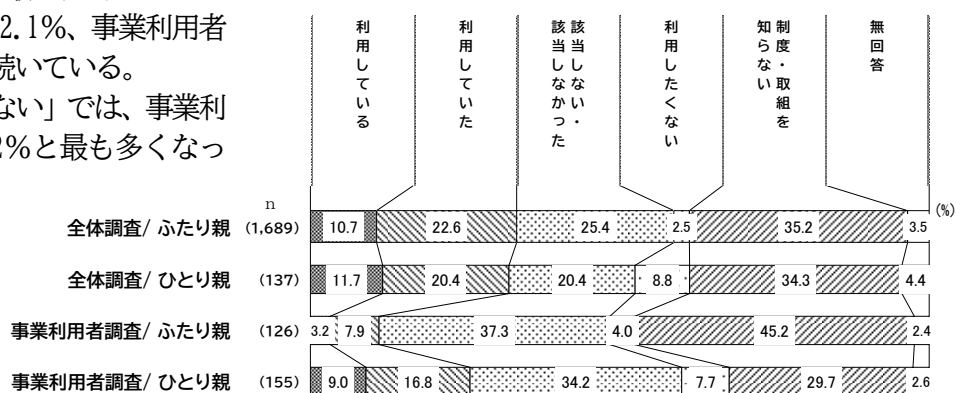


【7】子育て支援サービスの利用負担軽減 利用状況

子育て支援サービスの利用負担軽減の利用状況を世帯タイプ別にみると、『利用者』は、全体調査のふたり親が33.3%と最も多くなっており、全体調査のひとり親が32.1%、事業利用者調査のひとり親が25.8%と続いている。

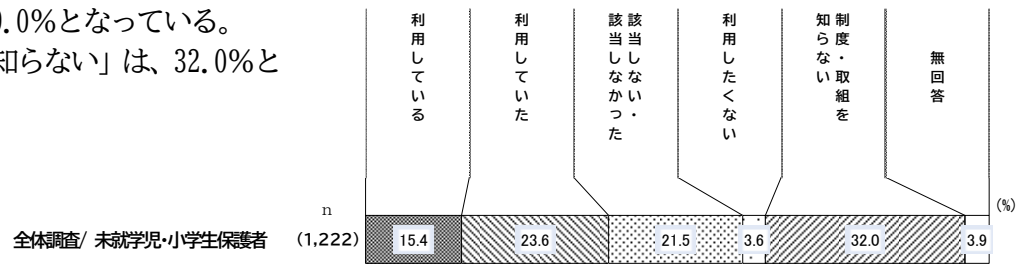
一方、「制度・取組を知らない」では、事業利用者調査のふたり親が45.2%と最も多くなっている。

<図表 子育て支援サービスの利用負担軽減 利用状況（世帯タイプ別）>



全体調査について事業の対象者に絞って集計すると、『利用者』は39.0%となっている。
一方、「制度・取組を知らない」は、32.0%と半数を超えている。

<図表 子育て支援サービスの利用負担軽減 利用状況（全体調査の対象者別）>

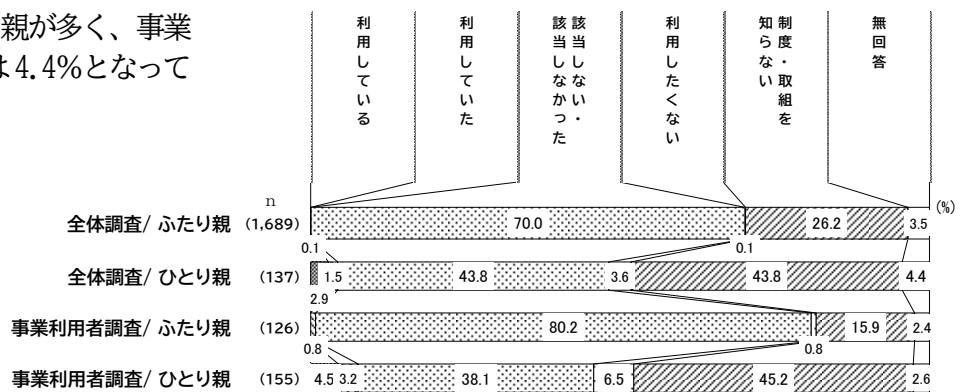


【8】母子家庭及び父子家庭自立支援事業 利用状況

母子家庭及び父子家庭自立支援事業の利用負担軽減の利用状況を世帯タイプ別にみると、『利用者』は、両調査ともにひとり親が多く、事業利用者調査は7.7%、全体調査は4.4%となっている。

一方、「制度・取組を知らない」についても両調査ともにひとり親が多く、事業利用者調査は45.2%、全体調査は43.8%となっている。

<図表 母子家庭及び父子家庭自立支援事業 利用状況（世帯タイプ別）>

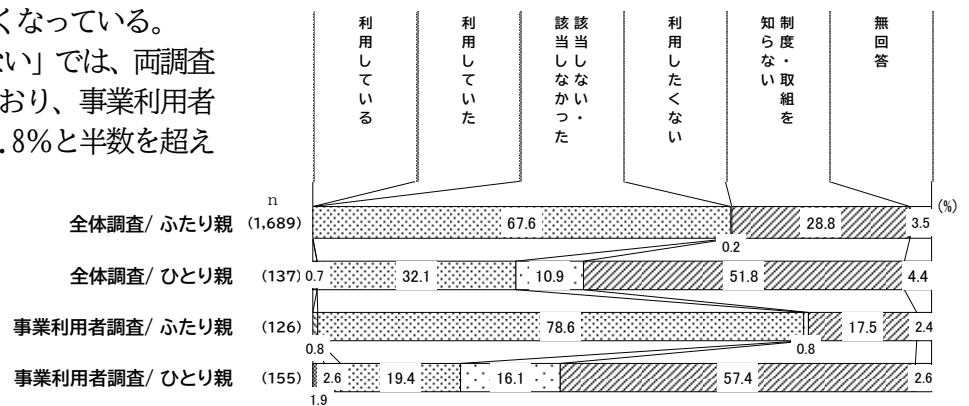


【9】母子および父子福祉資金 利用状況

母子および父子福祉資金の利用状況を世帯タイプ別にみると、『利用者』は、事業利用者調査のひとり親が4.5%と最も多くなっている。

一方、「制度・取組を知らない」では、両調査ともにひとり親が多くなっており、事業利用者調査は57.4%、全体調査は51.8%と半数を超えている。

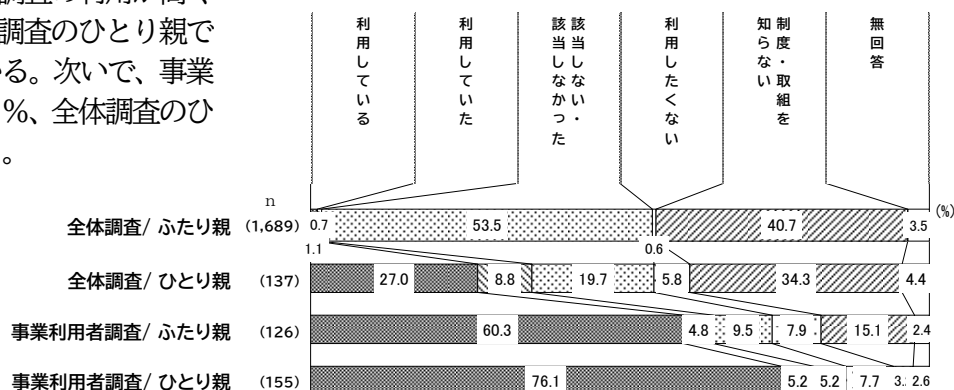
<図表 母子および父子福祉資金 利用状況（世帯タイプ別）>



【10】子ども宅食 利用状況

子ども宅食の利用状況を世帯タイプ別にみると、『利用者』は、事業利用者調査の利用が高くなっており、特に事業利用者調査のひとり親では81.3%と最も多くなっている。次いで、事業利用者調査のふたり親が65.1%、全体調査のひとり親が35.8%となっている。

<図表 子ども宅食 利用状況（世帯タイプ別）>

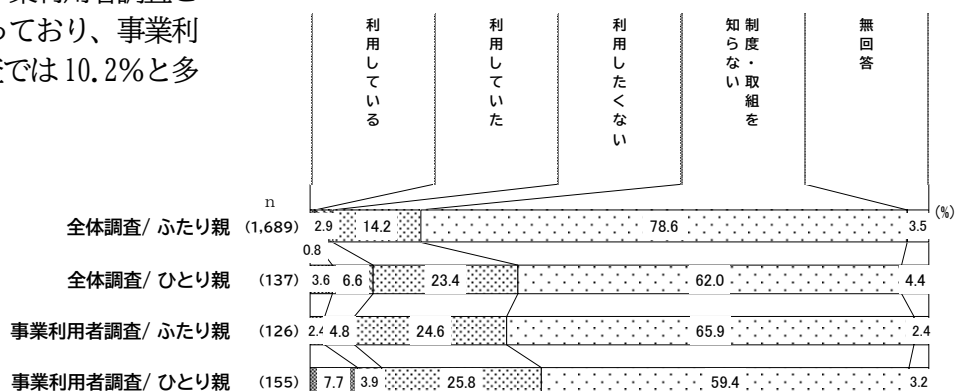


【11】子ども食堂 利用状況

子ども食堂の利用状況を世帯タイプ別にみると、『利用者』は、全体調査、事業利用者調査ともにひとり親の利用が高くなっており、事業利用者調査では11.6%、全体調査では10.2%と多くなっている。

一方、「制度・取組を知らない」では、全世帯タイプで半数を超えており、特に全体調査のふたり親が78.6%と最も多くなっている。

<図表 子ども食堂 利用状況（世帯タイプ別）>

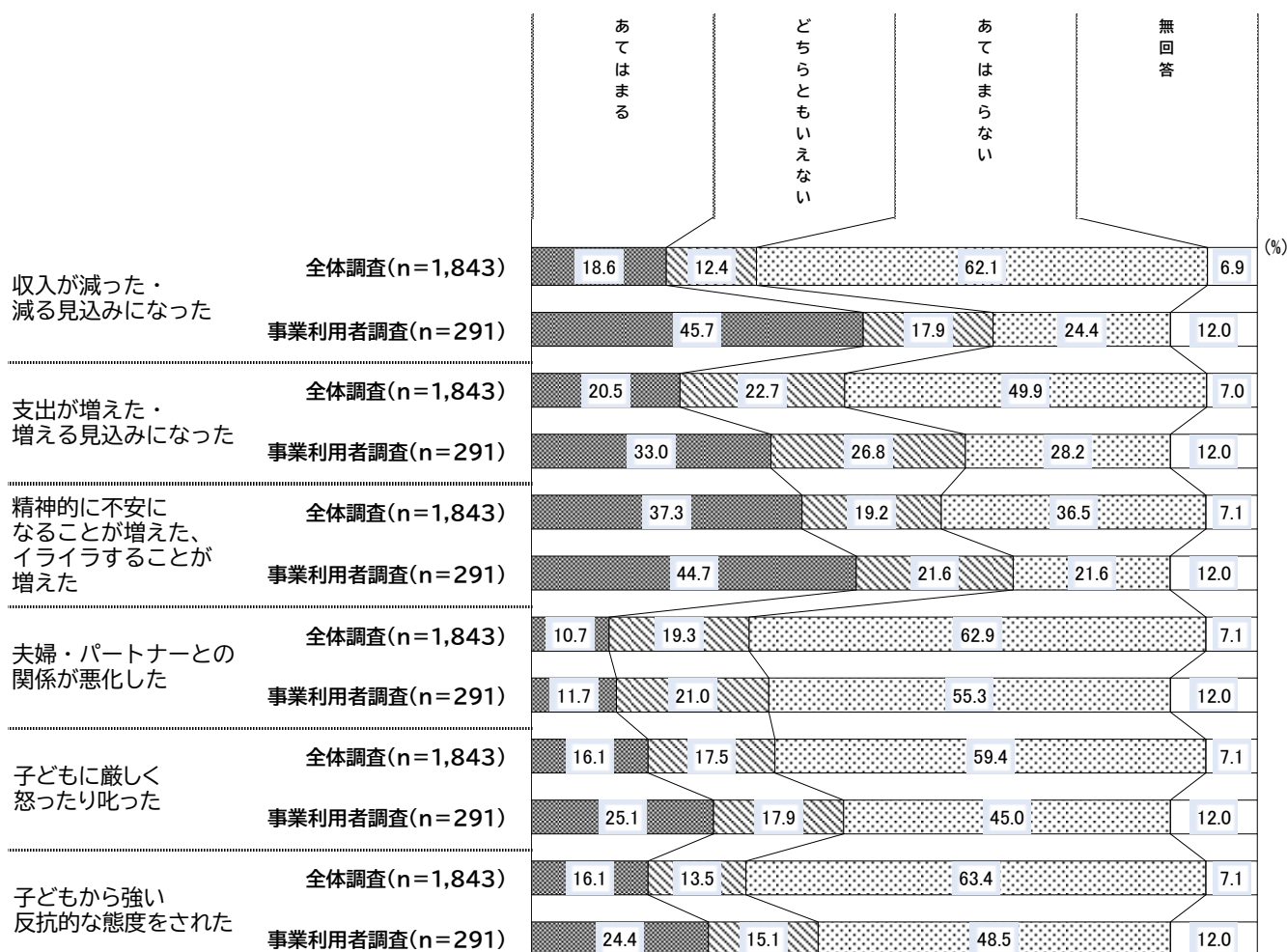


(3) 新型コロナウイルス感染症による自身への影響

【問】 新型コロナウイルス感染症による影響について、それぞれあてはまるもの1つずつに○をつけてください。

新型コロナウイルス感染症による自身への影響を尋ねたところ、「あてはまる」は、全ての項目で事業利用者調査が上回っており、特に「収入が減った・減る見込みになった」では全体調査 18.6%、事業利用者調査 45.7%と 27.1 ポイント差が見られる。次いで「支出が増えた・増える見込みになった」が 12.5 ポイント、「子どもに厳しく怒ったり叱った」が 9.0 ポイント、「子どもから強い反抗的な態度をされた」が 8.3 ポイント事業利用者調査の方が全体調査よりも多くなっている。

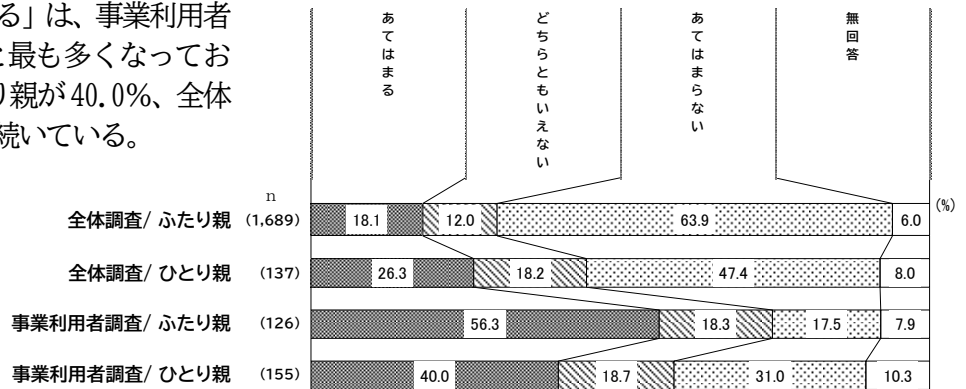
<図表 新型コロナウイルス感染症による自身への影響（全体調査・事業利用者調査比較）>



【1】収入が減った・減る見込みになった

収入が減った・減る見込みになったを世帯タイプ別にみると、「あてはまる」は、事業利用者調査のふたり親が 56.3%と最も多くなっており、事業利用者調査のひとり親が40.0%、全体調査のひとり親が26.3%と続いている。

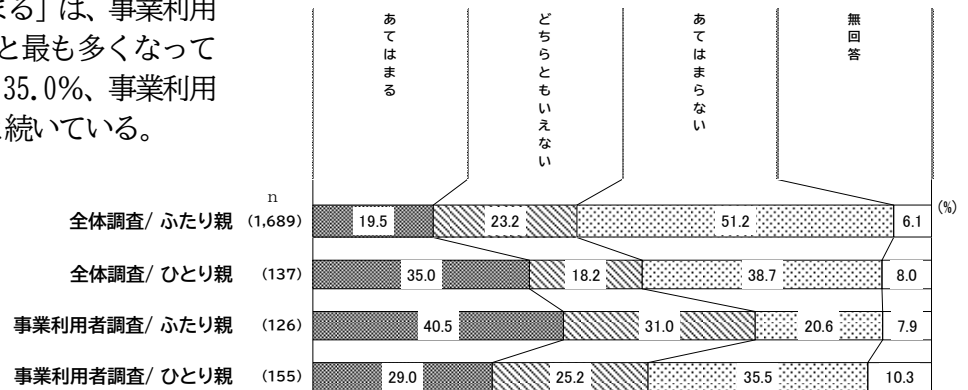
<図表 収入が減った（減る見込みになった）（世帯タイプ別）>



【2】支出が増えた・増える見込みになった

支出が増えた・増える見込みになったを世帯タイプ別にみると、「あてはまる」は、事業利用者調査のふたり親が 40.5%と最も多くなっており、全体調査のひとり親が35.0%、事業利用者調査のひとり親が29.0%と続いている。

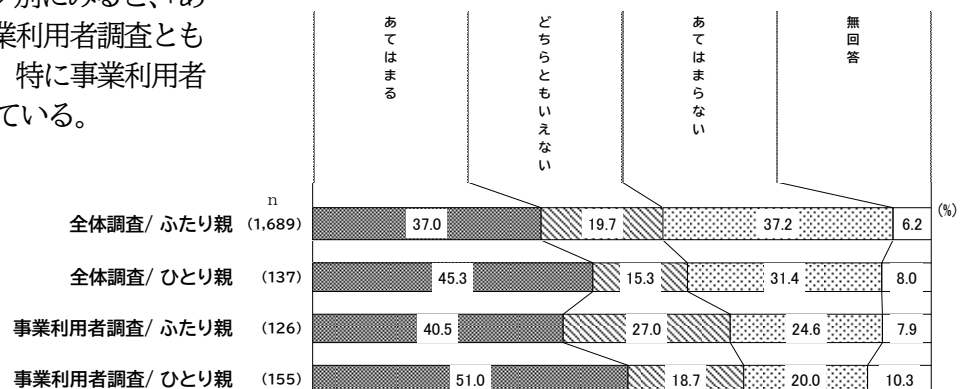
<図表 支出が増えた（増える見込みになった）（世帯タイプ別）>



【3】精神的に不安になることが増えた、イライラすることが増えた

精神的に不安になることが増えた、イライラすることが増えたを世帯タイプ別にみると、「あてはまる」は、全体調査、事業利用者調査ともにひとり親が多くなっており、特に事業利用者調査では51.0%と半数を超えている。

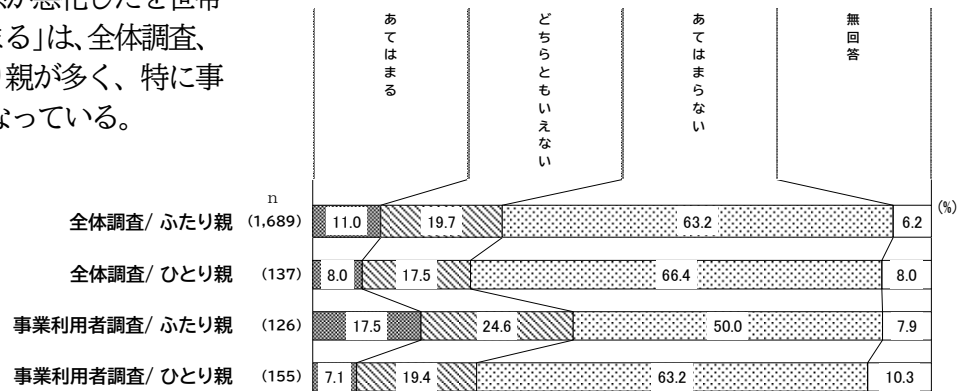
<図表 精神的に不安になることが増えた、イライラすることが増えた（世帯タイプ別）>



【4】夫婦・パートナーとの関係が悪化した

夫婦・パートナーとの関係が悪化したを世帯タイプ別にみると、「あてはまる」は、全体調査、事業利用者調査ともにふたり親が多く、特に事業利用者調査では17.5%となっている。

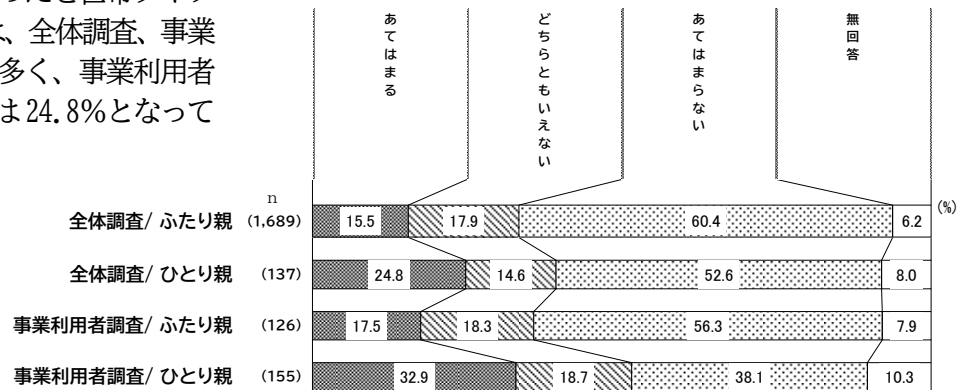
<図表 夫婦・パートナーとの関係が悪化した（世帯タイプ別）>



【5】子どもに厳しく怒ったり叱った

子どもに厳しく怒ったり叱ったを世帯タイプ別にみると、「あてはまる」は、全体調査、事業利用者調査ともにひとり親が多く、事業利用者調査では32.9%、全体調査では24.8%となっている。

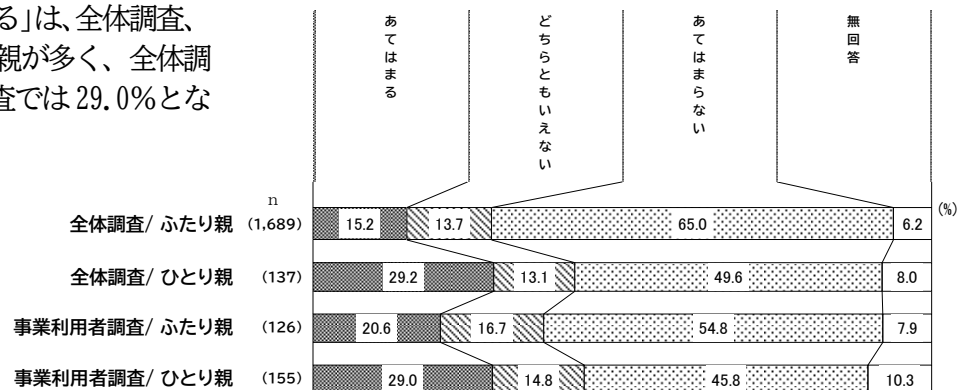
<図表 子どもに厳しく怒ったり叱った（世帯タイプ別）>



【6】子どもから強い反抗的な態度をされた

子どもから強い反抗的な態度をされたを世帯タイプ別にみると、「あてはまる」は、全体調査、事業利用者調査ともにひとり親が多く、全体調査では29.2%、事業利用者調査では29.0%となっている。

<図表 子どもから強い反抗的な態度をされた（世帯タイプ別）>



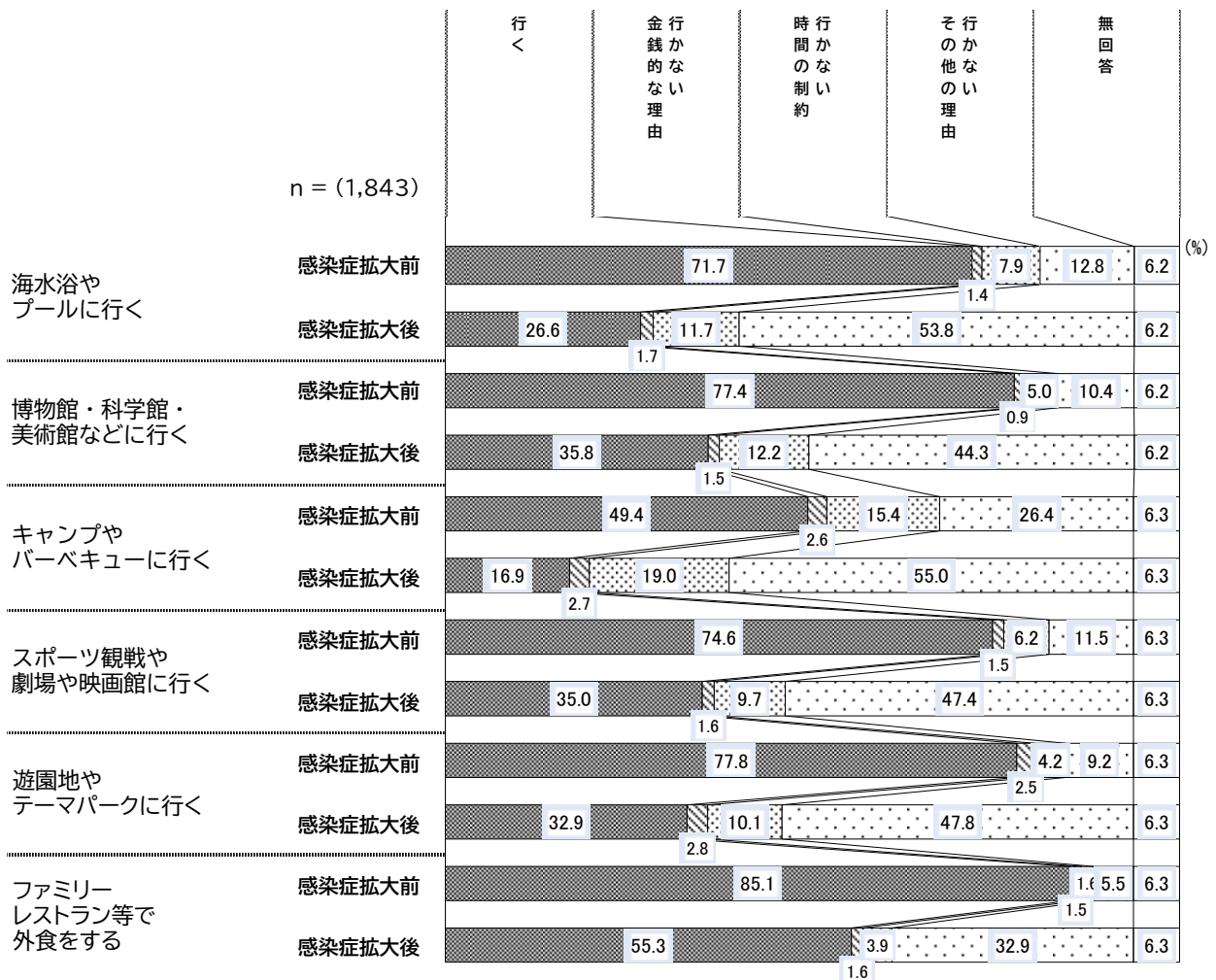
(4) 家庭での体験の状況

【問】あなたのご家庭では、お子さんと次のような体験をしましたか。A～Fそれぞれについて、ある場合は「1」に○を、ない場合はあてはまる理由を「2」～「4」からそれぞれ1つずつに○をつけてください。

家庭での体験の状況について新型コロナウイルス感染症拡大前後で比較すると、全体調査では、全ての項目で「行く」の割合が感染症拡大後に下がっている。特に「海水浴やプールに行く」では感染症拡大前は71.7%、感染症拡大後は26.6%で45.1ポイントともっとも減少しており、次いで「遊園地やテーマパークに行く」が感染症拡大前は77.8%、感染症拡大後は32.9%と44.9ポイント減少している。

<図表 家庭での体験の状況（新型コロナウイルス感染症拡大前後比較①）>

全体調査

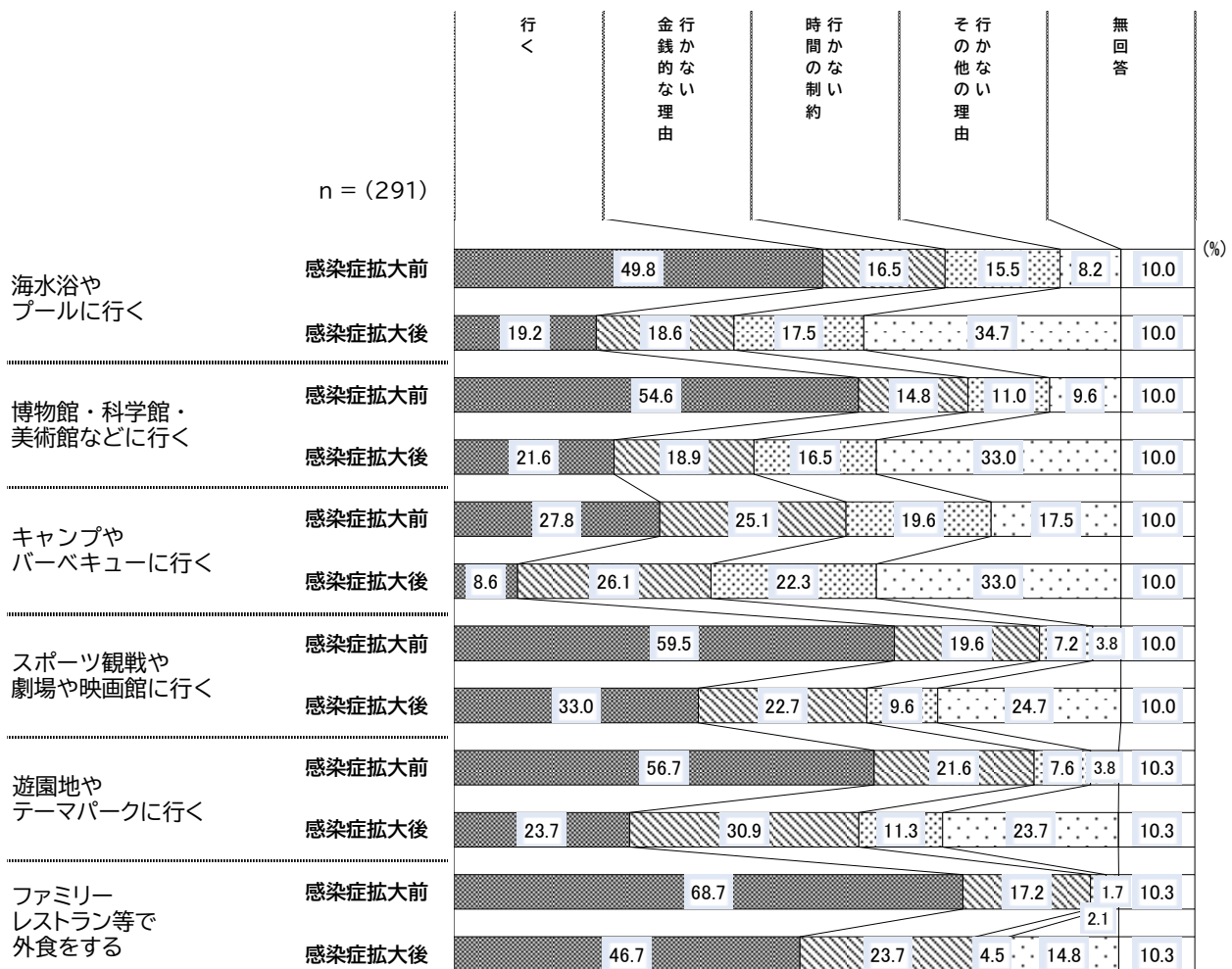


事業利用者調査についても、新型コロナウイルス感染症拡大前後で比較すると、全ての項目で「行く」の割合が感染症拡大後に下がっている。

また、「行かない（金銭的な理由）」の割合は感染症拡大後に全ての項目で上がっており、特に「遊園地やテーマパークに行く」では感染症拡大前 21.6%、感染症拡大後 30.9%と 9.3 ポイント増加しており、「ファミリーレストラン等で外食をする」では感染症拡大前 17.2%、感染症拡大後 23.7%と 6.5 ポイント増加している。

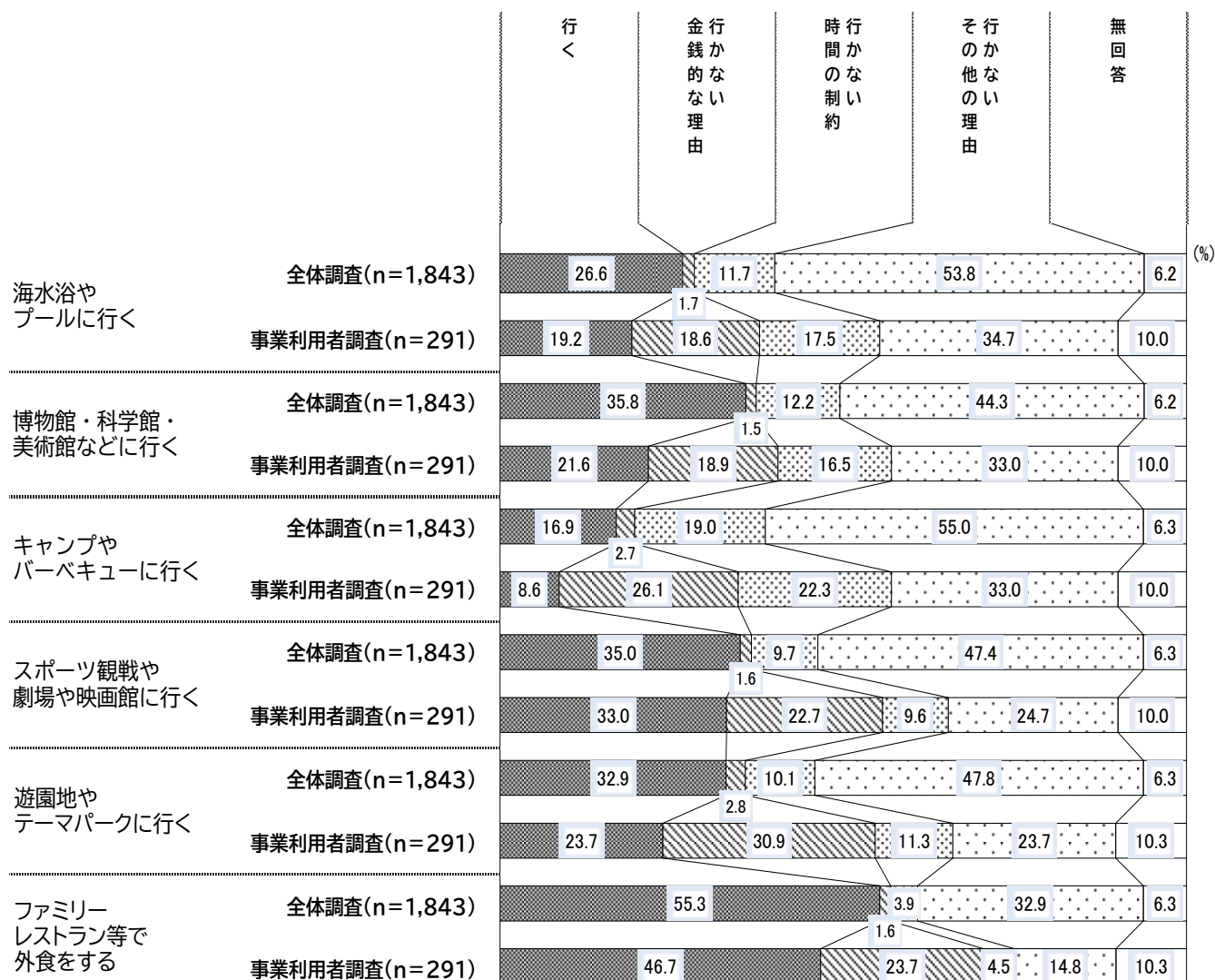
<図表 家庭での体験の状況（新型コロナウイルス感染症拡大前後比較②）>

事業利用者調査



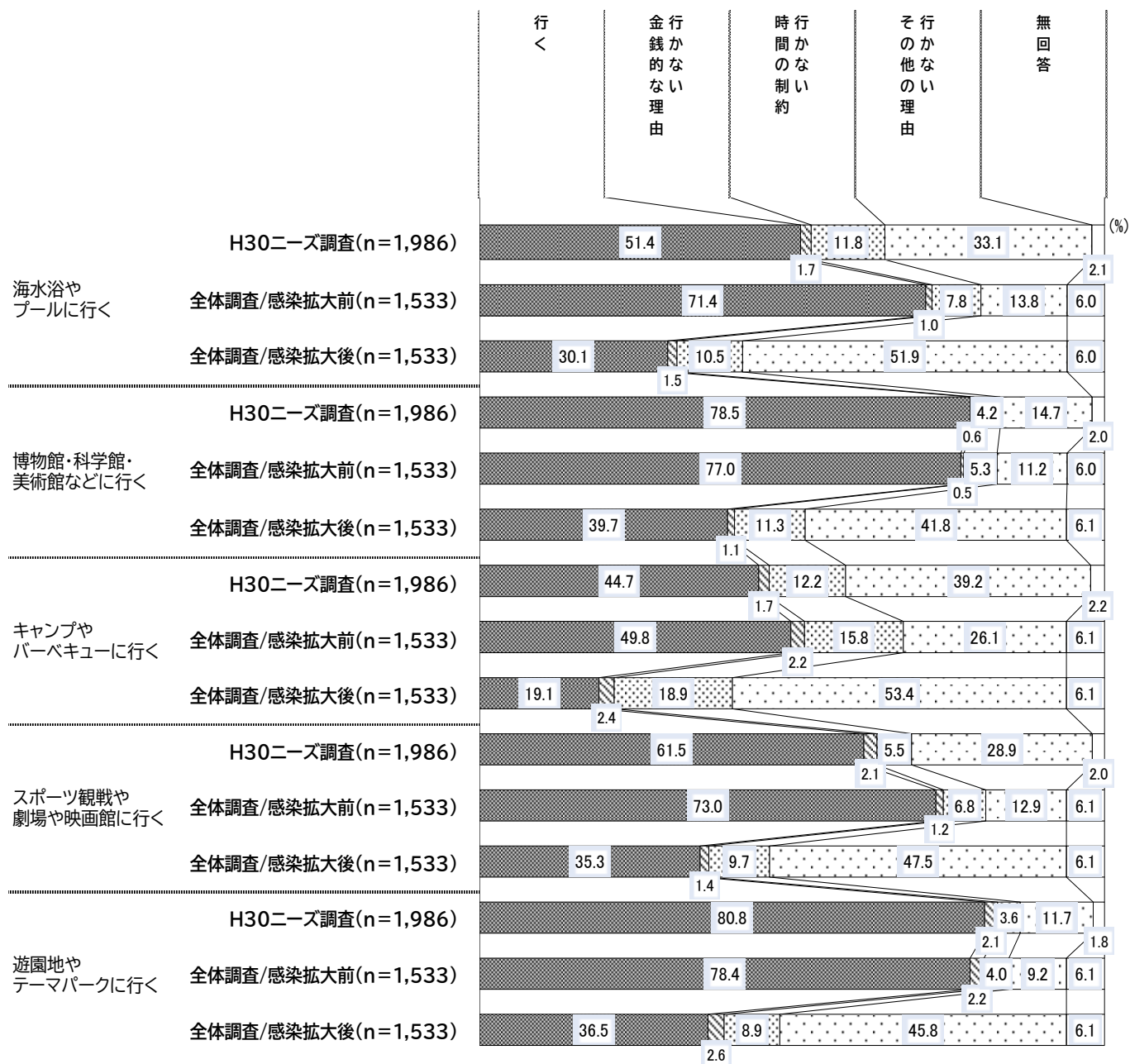
感染症拡大後の家庭での体験の状況について尋ねたところ、「行かない（金銭的な理由）」の割合は全ての項目で事業利用者調査が上回っており、特に「遊園地やテーマパークに行く」では全体調査2.8%、事業利用者調査30.9%と28.1ポイントの差が見られる。次いで「キャンプやバーベキューに行く」が23.4ポイント、「ファミリーレストラン等で外食をする」が22.1ポイント、「スポーツ観戦や劇場や映画館に行く」が21.1ポイントの差が見られる。

<図表 家庭での体験の状況・感染症拡大後（全体調査・事業利用者調査比較）>



家庭での体験の状況について平成30年度実施のニーズ調査と感染拡大前後を比較したところ、感染拡大後は全ての項目で「行く」の割合が下がっている。

<図表 家庭での体験の状況 (H30 ニーズ調査・全体調査比較) >



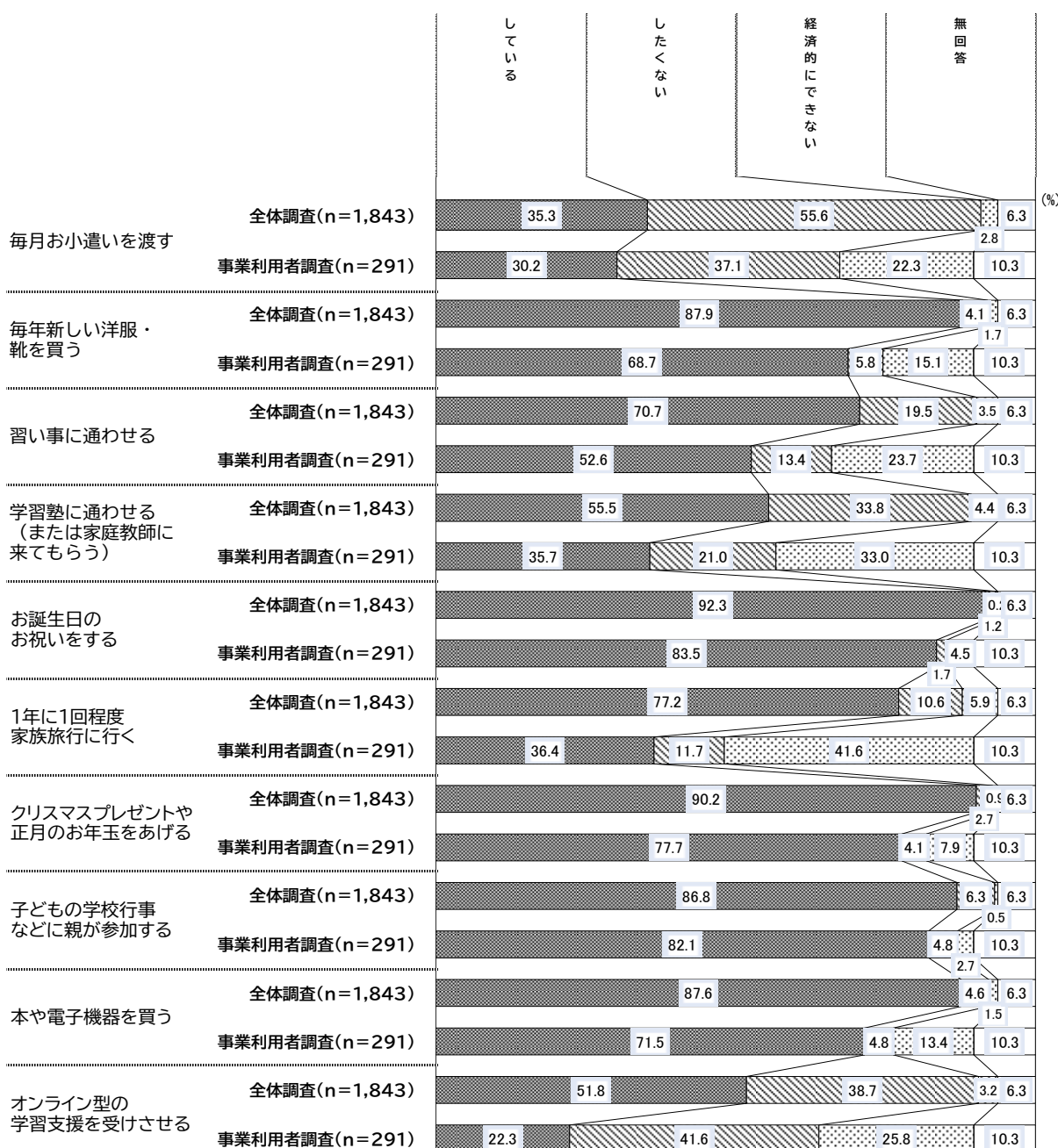
(5) 子どもの体験の状況

【問】あなたのご家庭では、お子さんに次のことをしていますか。A～Jそれぞれについて、している場合は「1」に○を、していない場合はあてはまる理由を「2」又は「3」からそれぞれ1つずつに○を付けてください。

子どもの体験の状況について尋ねたところ、「している」の割合は、全ての項目で事業利用者調査が下回っており、特に「1年に1回程度家族旅行に行く」では全体調査77.2%、事業利用者調査36.4%で40.8ポイントと最も差がある。次に差があるものとして「オンライン型の学習支援を受けさせる」が29.5ポイント、そのほか「学習塾に通わせる（または家庭教師に来てもらう）」が19.8ポイント、「毎年新しい洋服・靴を買う」が19.2ポイント、「習い事に通わせる」が18.1ポイントと続いている。

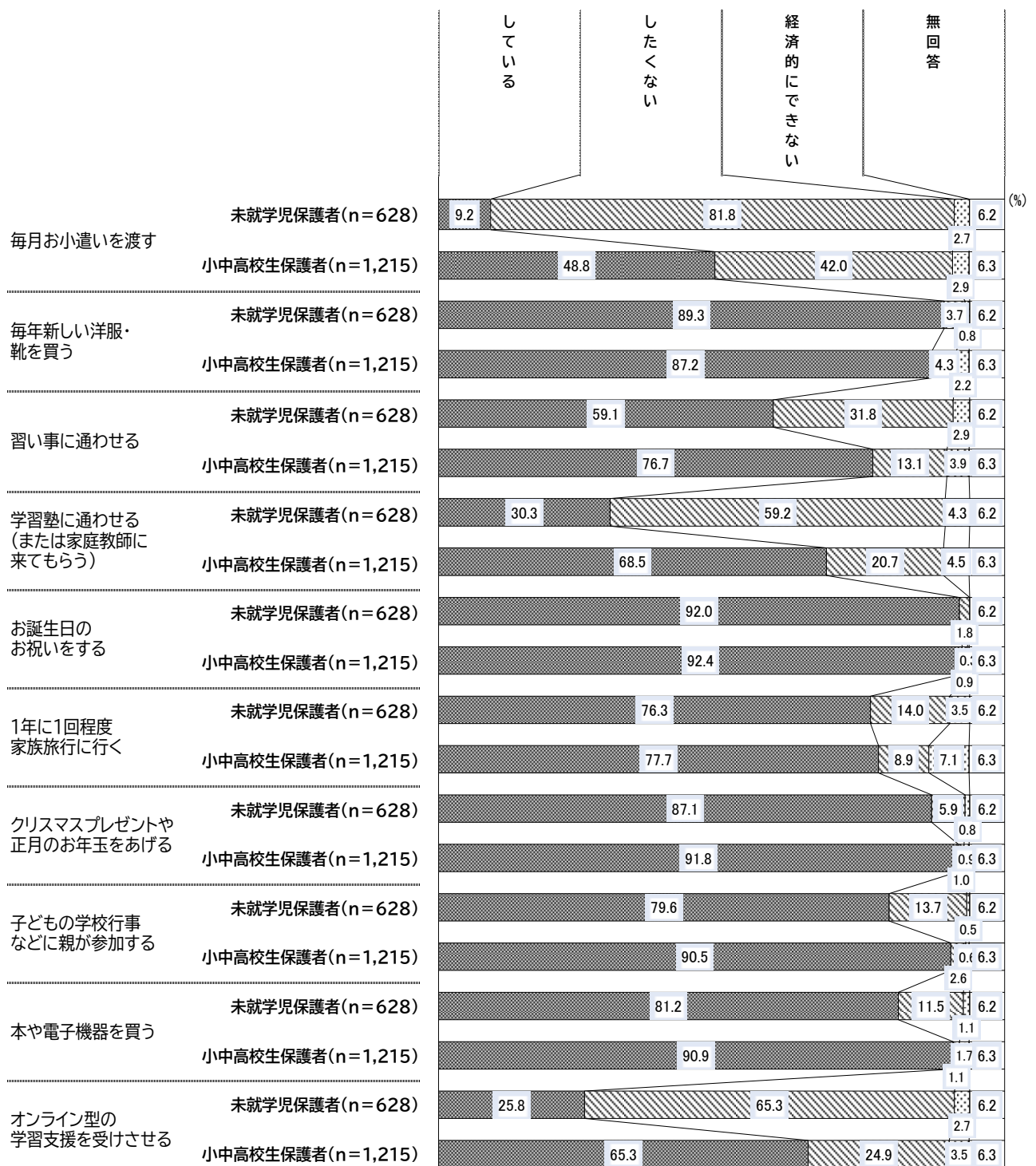
「経済的にできない」では、全ての項目で事業利用者調査が上回り、上記項目に加えて「毎月お小遣いを渡す」も事業利用者調査の方が全体調査よりも19.5ポイントと多くなっている。

<図表 子どもの体験の状況（全体調査・事業利用者調査比較）>



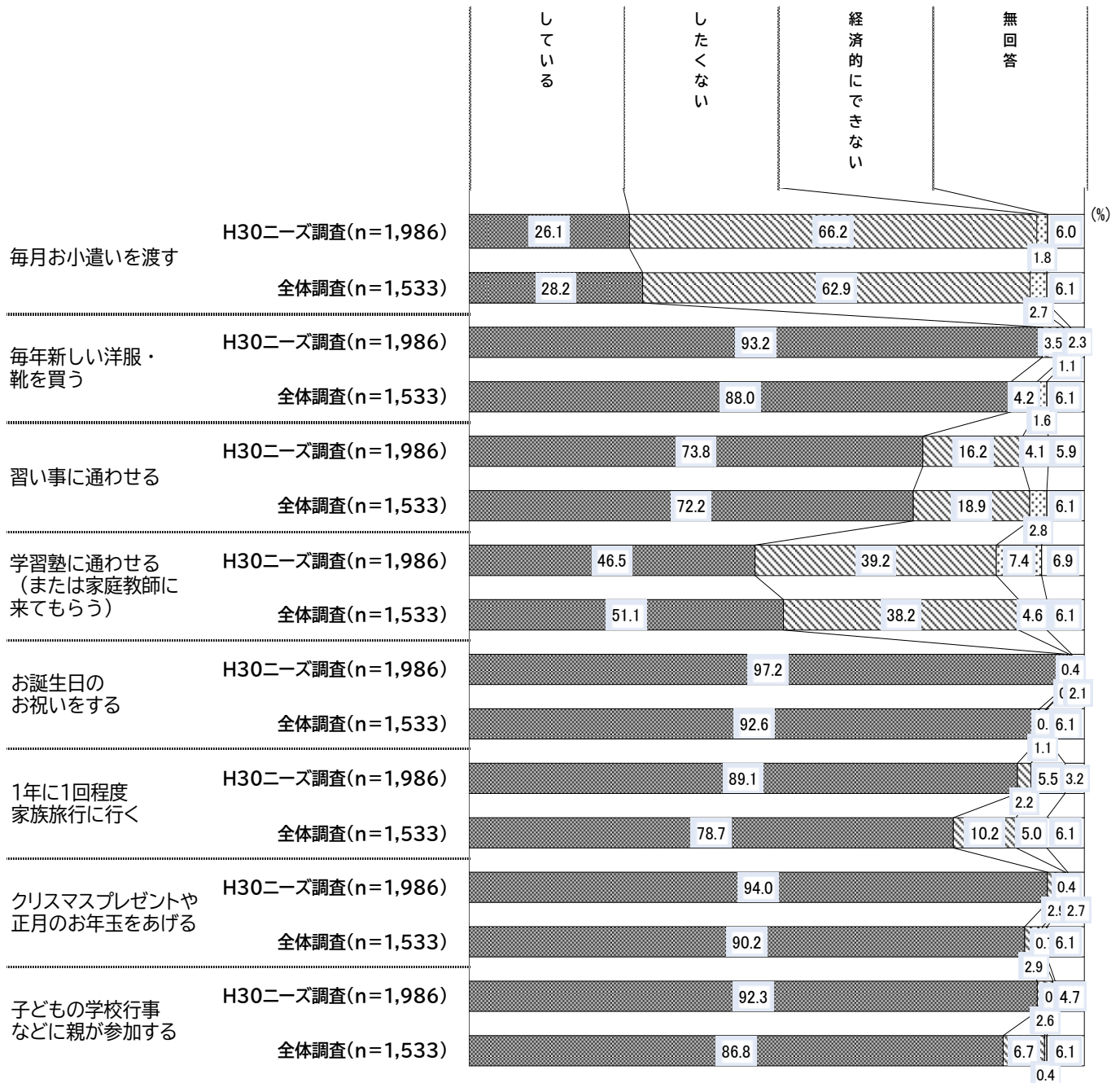
全体調査における子どもの体験の状況について対象者別で比較したところ、「している」の割合は、「毎年新しい洋服・靴を買う」以外の全ての項目で小中高校生保護者の方が未就学児保護者よりも多くなっている。特に差があるものとして「毎月お小遣いを渡す」が39.6ポイント、「オンライン型の学習支援を受けさせる」が39.5ポイント、「学習塾に通わせる（または家庭教師に来てもらう）」が38.2ポイントと続いている。

<図表 子どもの体験の状況（全体調査の対象者別比較）>



子どもの体験の状況について平成30年度実施のニーズ調査と比較したところ、全体調査の方がH30ニーズ調査よりも「1年に1回程度家族旅行に行く」で10.4ポイント、「子どもの学校行事などに親が参加する」で5.5ポイント、「毎年新しい洋服・靴を買う」で5.2ポイント少なくなっている。

<図表 子どもの体験の状況 (H30 ニーズ調査・全体調査比較) >



(6) 家庭の家計状況

【問】あなたのご家庭の家計について、それぞれあてはまるものに1つに○を付けてください。

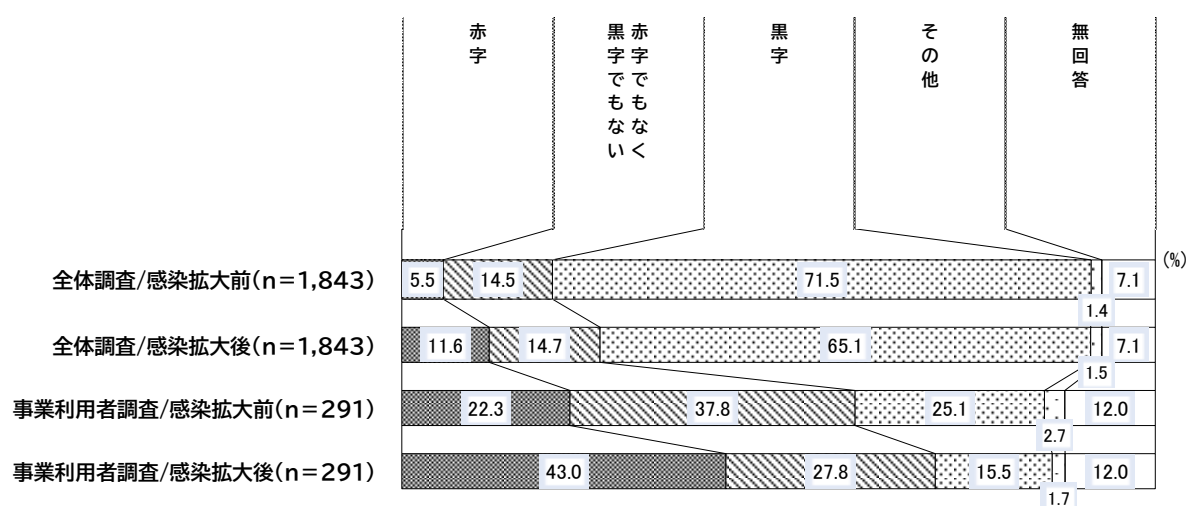
家庭の家計状況について尋ねたところ、感染症拡大前では「黒字」が全体調査が71.5%、事業利用者調査が25.1%と全体調査の方が46.4ポイント多くなっている。「赤字」は全体調査が5.5%、事業利用者調査が22.3%と事業利用者調査の方が16.8ポイント多くなっている。

感染症拡大後では「黒字」は全体調査が65.1%、事業利用者調査が15.5%と全体調査の方が49.6ポイント多くなっている。「赤字」は全体調査が11.6%、事業利用者調査が43.0%と事業利用者調査の方が31.4ポイント多くなっている。

また、「赤字」を感染症拡大前後で比較すると、全体調査は6.1ポイント微増している一方で、事業利用者調査は20.7ポイントと大きく増加している。

今回調査の結果から、感染症拡大後に生活が苦しいと感じている世帯は、全体調査では11.6%、事業利用者調査では43.0%存在していると類推される。

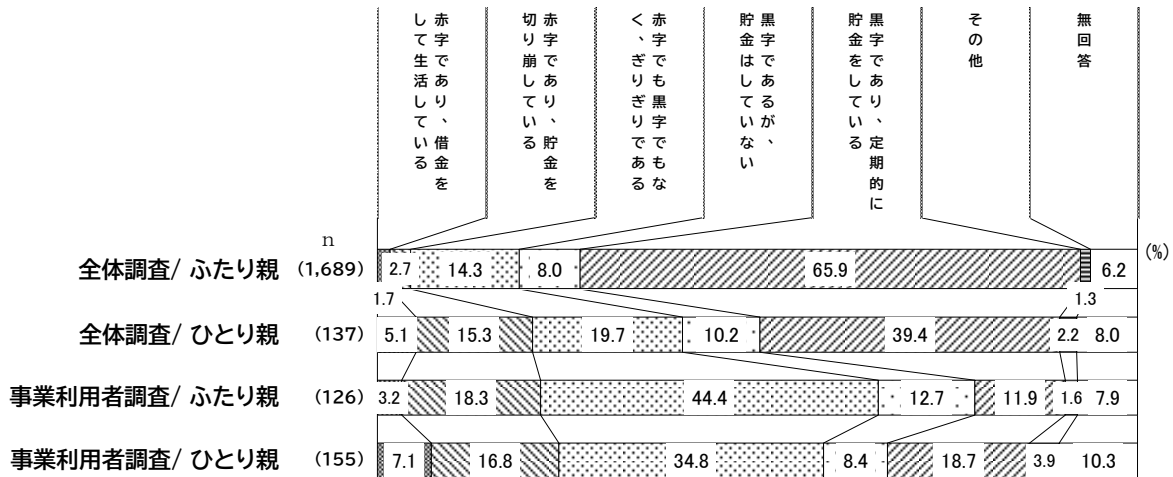
<図表 家庭の家計状況（全体調査・事業利用者調査比較）>



家庭の家計状況（新型コロナウイルス感染症拡大前）

感染症拡大前の家庭の家計状況を世帯タイプ別にみると、「赤字であり、貯金を切り崩している」は事業利用者調査のふたり親が18.3%、ひとり親が16.8%と高くなっている。「黒字であり、定期的に貯金をしている」は、全体調査のふたり親が65.9%と最も多く、次いで全体調査のひとり親が39.4%となっている。

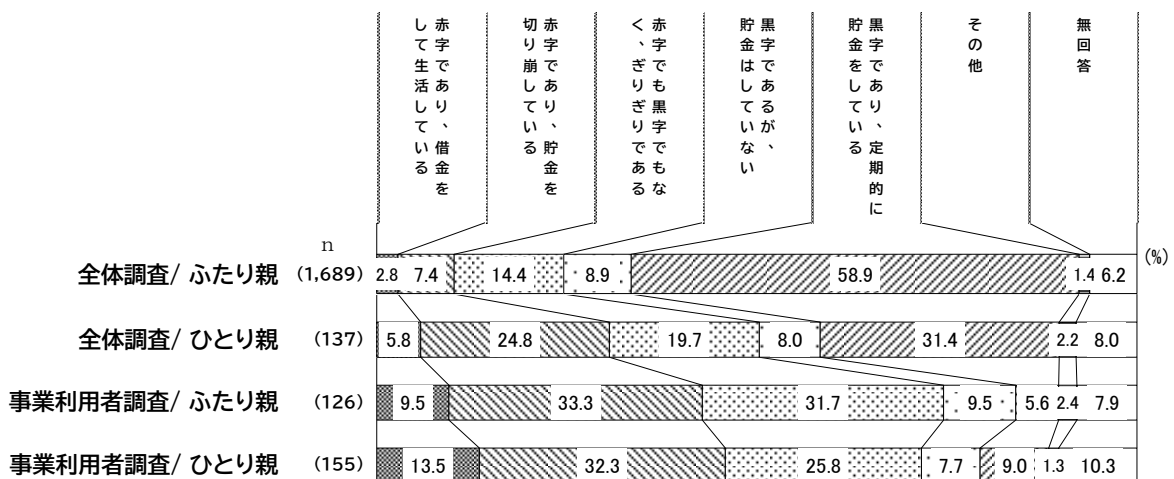
<図表 家庭の家計状況（世帯タイプ別）>



家庭の家計状況（新型コロナウイルス感染症拡大後）

感染症拡大後の家庭の家計状況を世帯タイプ別にみると、「赤字であり、借金をして生活している」は事業利用者調査のひとり親が13.5%と最も多くなっている。「赤字であり、貯金を切り崩している」は事業利用者調査のふたり親が33.3%、ひとり親が32.3%と多くなっている。「黒字であり、定期的に貯金をしている」は、全体調査のふたり親が58.9%と最も多く、次いで全体調査のひとり親が31.4%となっている。

<図表 家庭の家計状況（世帯タイプ別）>



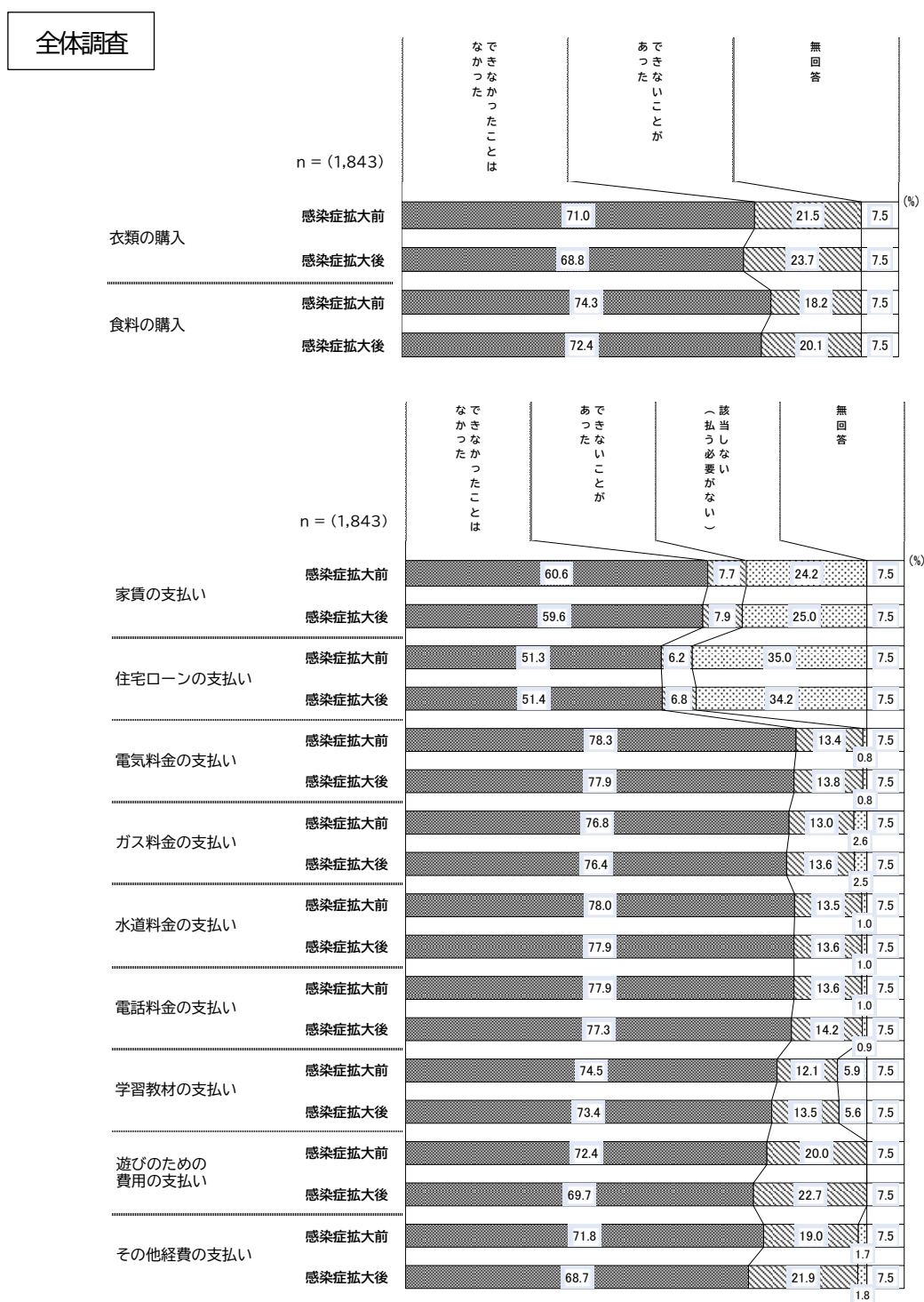
(7) 経済的理由で諦めた経験

【問】あなたのご家庭で経済的な理由で以下のことができなかったことがありますか。それぞれあてはまるものに1つに○を付けてください。

経済的理由で諦めた経験について新型コロナウイルス感染症拡大前後で比較すると、全体調査、事業利用者調査ともに全ての項目で「できないことがあった」の割合が感染症拡大後に増加している。

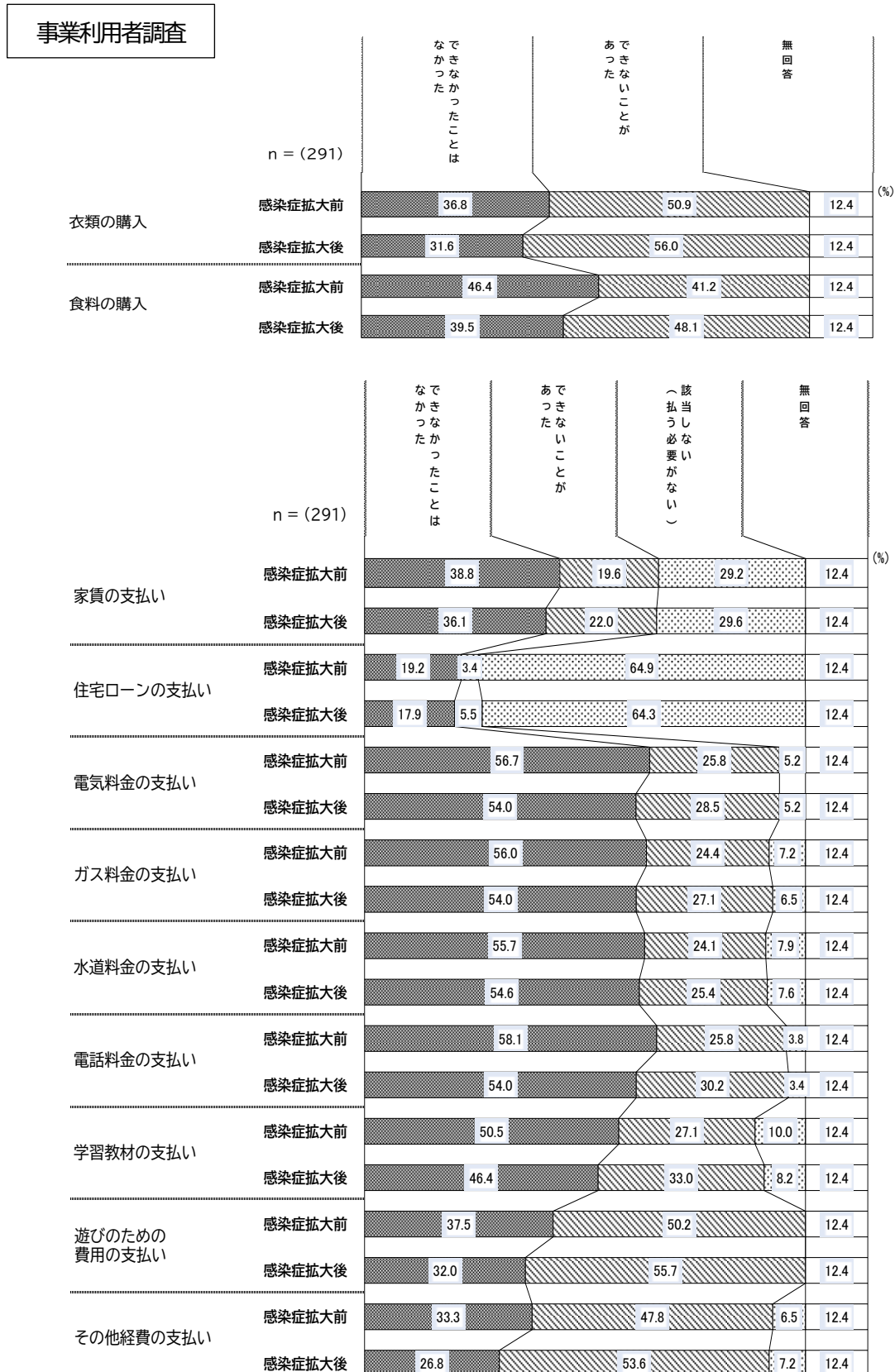
全体調査では、感染症拡大後に「その他経費の支払い」が2.9ポイント増加しており、「遊びのための費用の支払い」が2.7ポイント増と続いている。

<図表 経済的理由で諦めた経験（新型コロナウイルス感染症拡大前後比較①）>



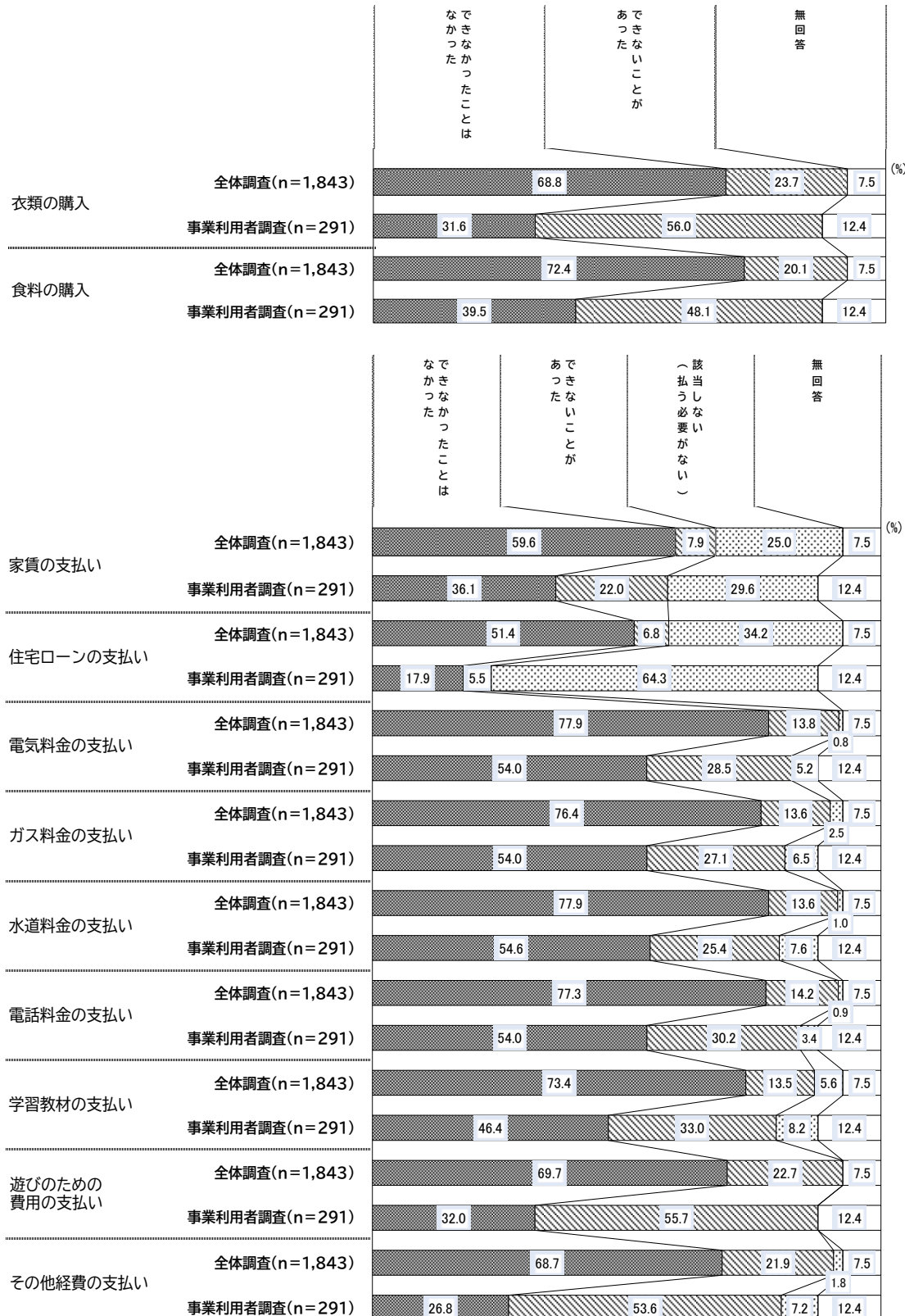
事業利用者調査では、感染症拡大後に「食料の購入」が6.9ポイント増加しており、「学習教材の支払い」が5.9ポイント増、「その他経費の支払い」が5.8ポイント増、「遊びのための費用の支払い」が5.5ポイント増、「衣類の購入」が5.1ポイント増と続いている。

<図表 経済的理由で諦めた経験（新型コロナウイルス感染症拡大前後比較②）>



感染症拡大後の経済的理由で諦めた経験について尋ねたところ、「できないことがあった」の割合は「住宅ローンの支払い」を除いた全ての項目で事業利用者調査が上回っており、特に「遊びのための費用の支払い」では全体調査22.7%、事業利用者調査55.7%と33.0ポイント差が見られる。次いで「衣類の購入」が32.3ポイント、「その他経費の支払い」が31.7ポイント、「食料の購入」が28.0ポイント差が見られる。

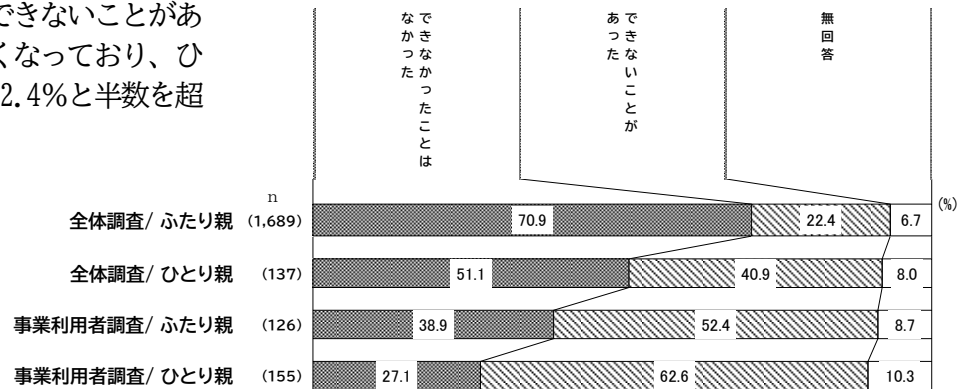
<図表 経済的理由で諦めた経験・感染症拡大後（全体調査・事業利用者調査比較）>



【1】衣類の購入

新型コロナウイルス感染症拡大後の衣類の購入を世帯タイプ別にみると、「できないことがあった」は事業利用者調査で多くなっており、ひとり親が62.6%、ふたり親が52.4%と半数を超えている。

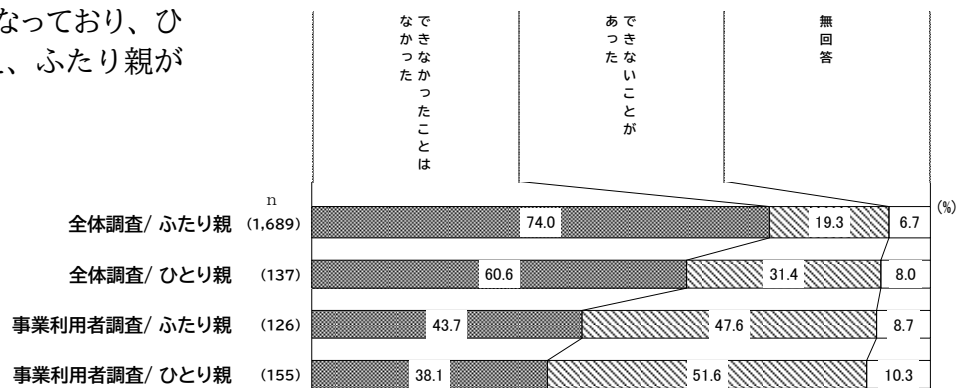
<図表 衣類の購入・感染症拡大後（世帯タイプ別）>



【2】食料の購入

新型コロナウイルス感染症拡大後の食料の購入を世帯タイプ別にみると、「できないことがあった」は事業利用者調査で多くなっており、ひとり親が51.6%と半数を超え、ふたり親が47.6%と続いている。

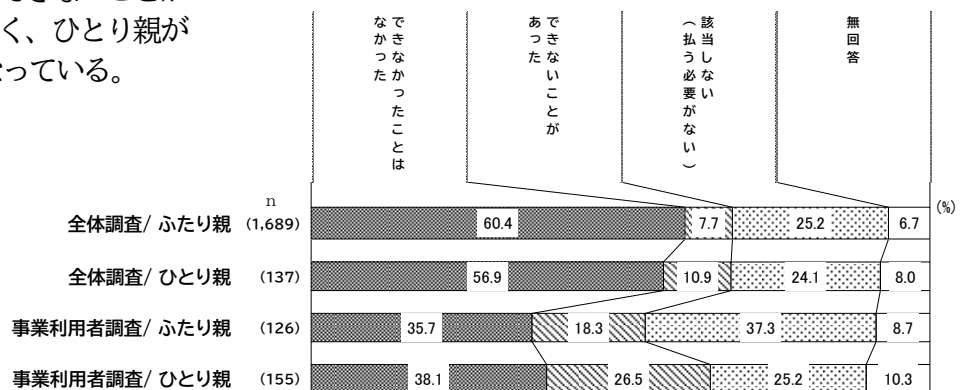
<図表 食料の購入・感染症拡大後（世帯タイプ別）>



【3】家賃の支払い

新型コロナウイルス感染症拡大後の家賃の支払いを世帯タイプ別にみると、「できないことがあった」は事業利用者調査で多く、ひとり親が26.5%、ふたり親が18.3%となっている。

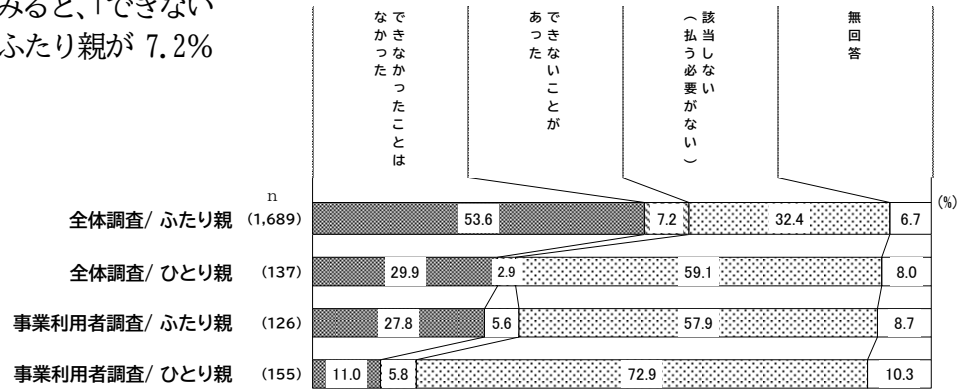
<図表 家賃の支払い・感染症拡大後（世帯タイプ別）>



【4】住宅ローンの支払い

新型コロナウイルス感染症拡大後の住宅ローンの支払いを世帯タイプ別にみると、「できないことがあった」は全体調査のふたり親が7.2%と最も多くなっている。

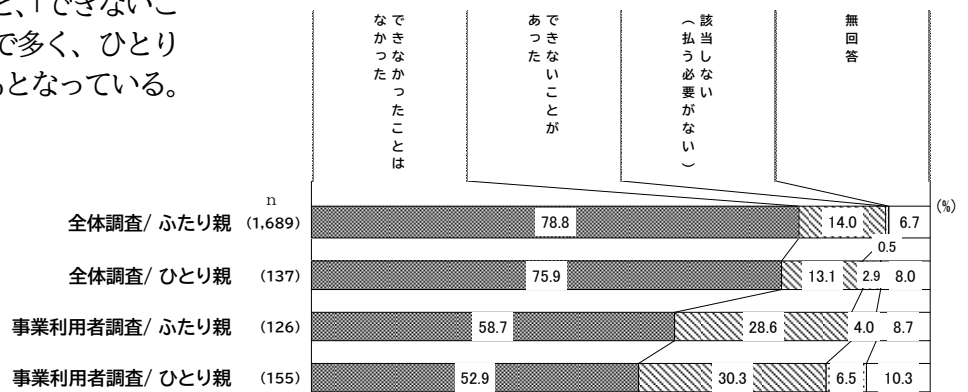
<図表 住宅ローンの支払い・感染症拡大後（世帯タイプ別）>



【5】電気料金の支払い

新型コロナウイルス感染症拡大後の電気料金の支払いを世帯タイプ別にみると、「できないことがあった」は事業利用者調査で多く、ひとり親が30.3%、ふたり親が28.6%となっている。

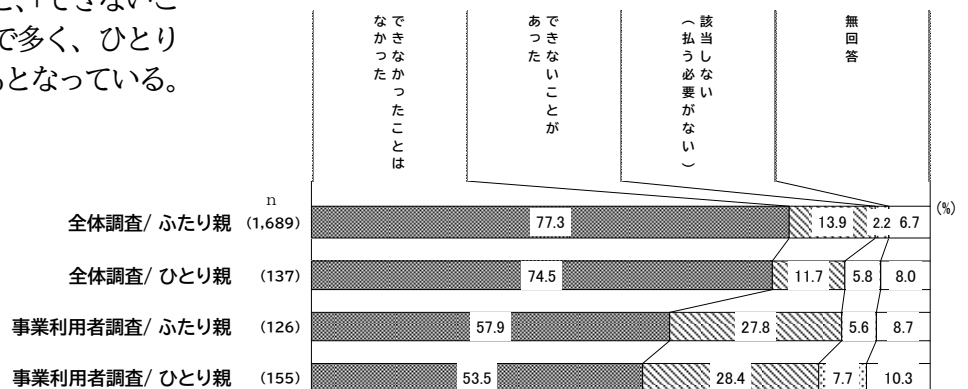
<図表 電気料金の支払い・感染症拡大後（世帯タイプ別）>



【6】ガス料金の支払い

新型コロナウイルス感染症拡大後のガス料金の支払いを世帯タイプ別にみると、「できないことがあった」は事業利用者調査で多く、ひとり親が28.4%、ふたり親が27.8%となっている。

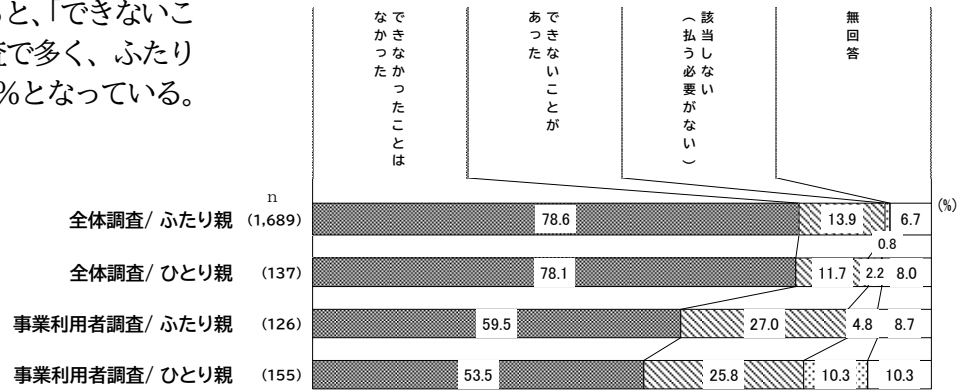
<図表 ガス料金の支払い・感染症拡大後（世帯タイプ別）>



【7】水道料金の支払い

新型コロナウイルス感染症拡大後の水道料金の支払いを世帯タイプ別にみると、「できないことがあった」は事業利用者調査で多く、ふたり親が27.0%、ひとり親が25.8%となっている。

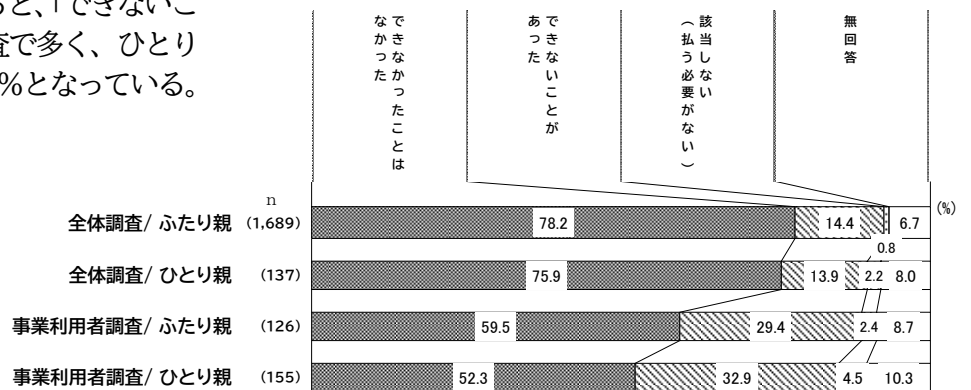
<図表 水道料金の支払い・感染症拡大後（世帯タイプ別）>



【8】電話料金の支払い

新型コロナウイルス感染症拡大後の電話料金の支払いを世帯タイプ別にみると、「できないことがあった」は事業利用者調査で多く、ひとり親が32.9%、ふたり親が29.4%となっている。

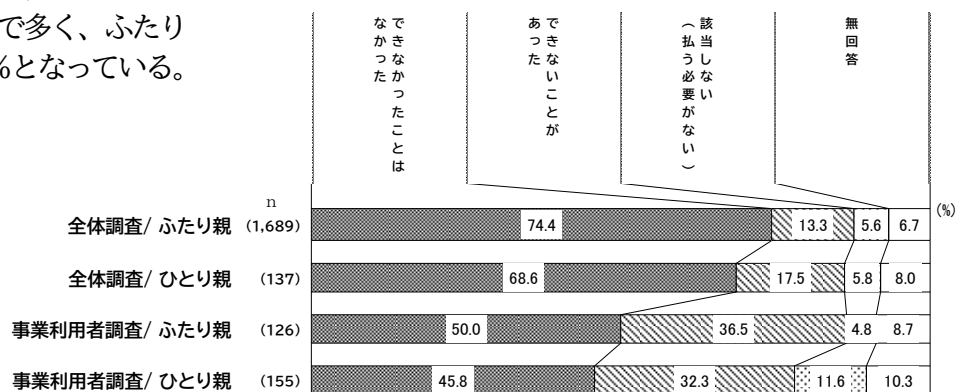
<図表 電話料金の支払い・感染症拡大後（世帯タイプ別）>



【9】学習教材の支払い

新型コロナウイルス感染症拡大後の学習教材の支払いを世帯タイプ別にみると、「できないことがあった」は事業利用者調査で多く、ふたり親が36.5%、ひとり親が32.3%となっている。

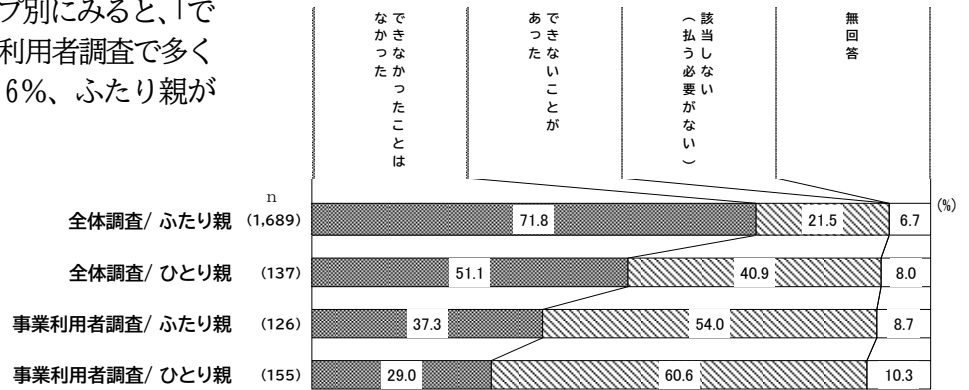
<図表 学習教材の支払い・感染症拡大後（世帯タイプ別）>



【10】遊びのための費用の支払い

新型コロナウイルス感染症拡大後の遊びのための費用の支払いを世帯タイプ別にみると、「できないことがあった」は事業利用者調査で多くなっており、ひとり親が60.6%、ふたり親が54.0%と半数を超えている。

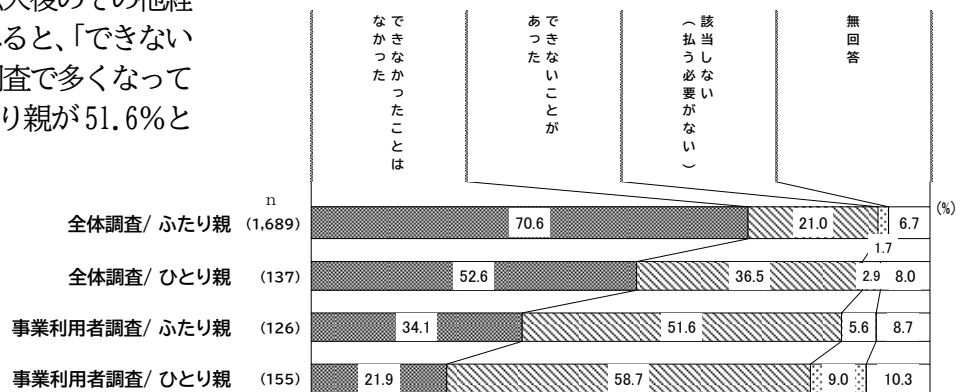
<図表 遊びのための費用の支払い・感染症拡大後（世帯タイプ別）>



【11】その他経費の支払い

新型コロナウイルス感染症拡大後のその他経費の支払いを世帯タイプ別にみると、「できないことがあった」は事業利用者調査で多くなっており、ひとり親が58.7%、ふたり親が51.6%と半数を超えている。

<図表 その他経費の支払い・感染症拡大後（世帯タイプ別）>



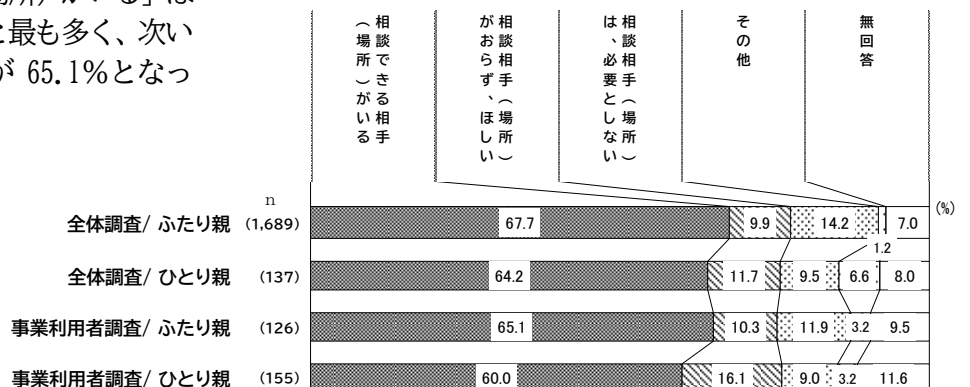
(8) 子育てについての相談先の有無

【問】あて名のお子さんの子育て（教育含む）をする上で、気軽に相談できる人はいますか。また、相談できる場所がありますか。あてはまる答えの番号1つに○を付けてください。

子育てについての相談先の有無について尋ねたところ、「相談できる相手（場所）がいる」は全体調査のふたり親が67.7%と最も多く、次いで事業利用者調査のふたり親が65.1%となっている。

「相談相手（場所）がおらず、ほしい」は事業利用者調査のひとり親が16.1%と最も多くなっている。

<図表 子育てについての相談先の有無（全体調査・事業利用者調査比較）>



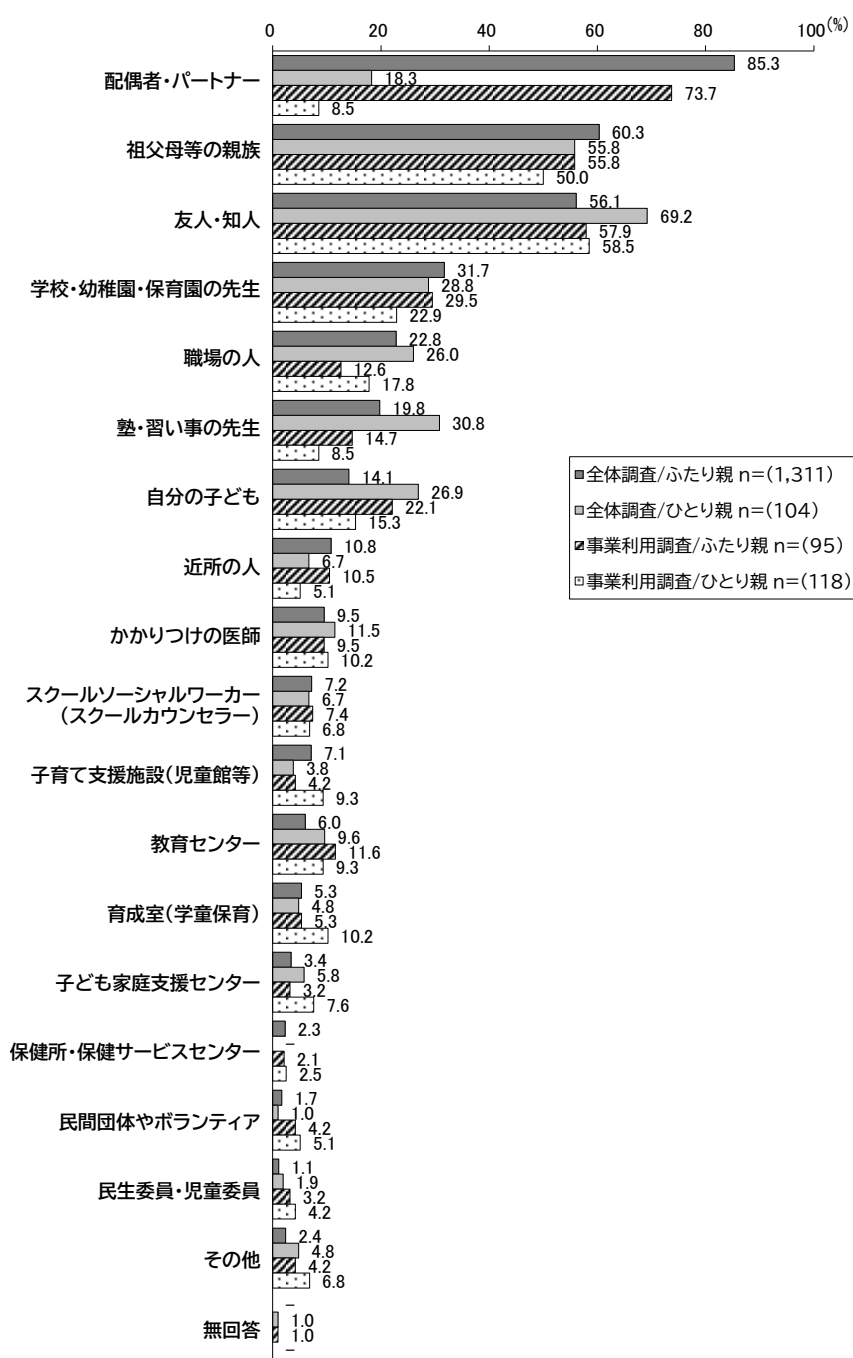
(9) 子育てについて相談できる人（相談したい人）

【問】（前問で、「1.」または「2.」とお答えの方におうかがいします。）

気軽に相談できる人（相談したい人）は、どなたですか。あてはまる答えの番号すべてに○をつけてください。

子育てについて相談できる人（相談したい人）を尋ねたところ、全体調査、事業利用者調査ともにふたり親では「配偶者・パートナー」が最も多くなっている。全体調査、事業利用者調査ともにひとり親では「友人・知人」が最も多くなっている。

<図表 子育てについて相談できる人（相談したい人）（全体調査・事業利用者調査比較）>



第3章 調査結果の詳細（子ども調査）

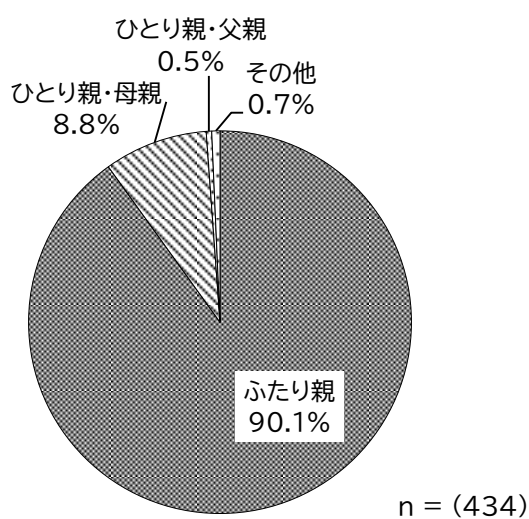
(1) 世帯タイプ

【問】 あなたの家族はどれにあてはまりますか。あてはまる答えの番号1つに○を付けてください。

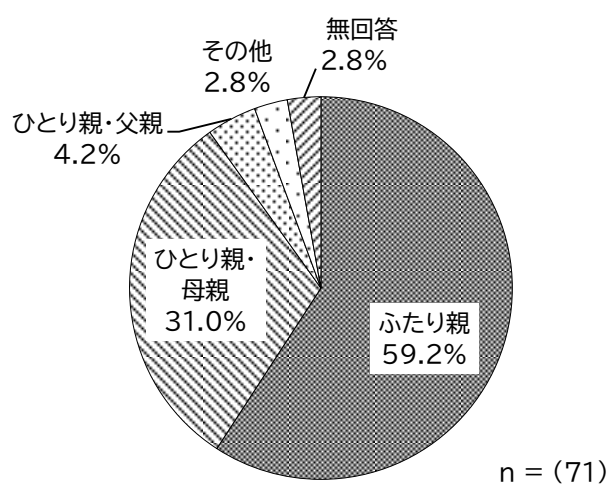
家族構成については、全体調査では「ふたり親」が90.1%と最も多くなっており、「ひとり親・母親」(8.8%)と「ひとり親・父親」(0.5%)をあわせた『ひとり親』は9.3%となっている。事業利用者調査は「ふたり親」は59.2%と最も多くなっており、「ひとり親・母親」が31.0%と続き、「ひとり親・父親」(4.2%)をあわせた『ひとり親』は35.2%となっている。

<図表 世帯タイプ (全体調査・事業利用者調査比較) >

全体調査



事業利用者調査

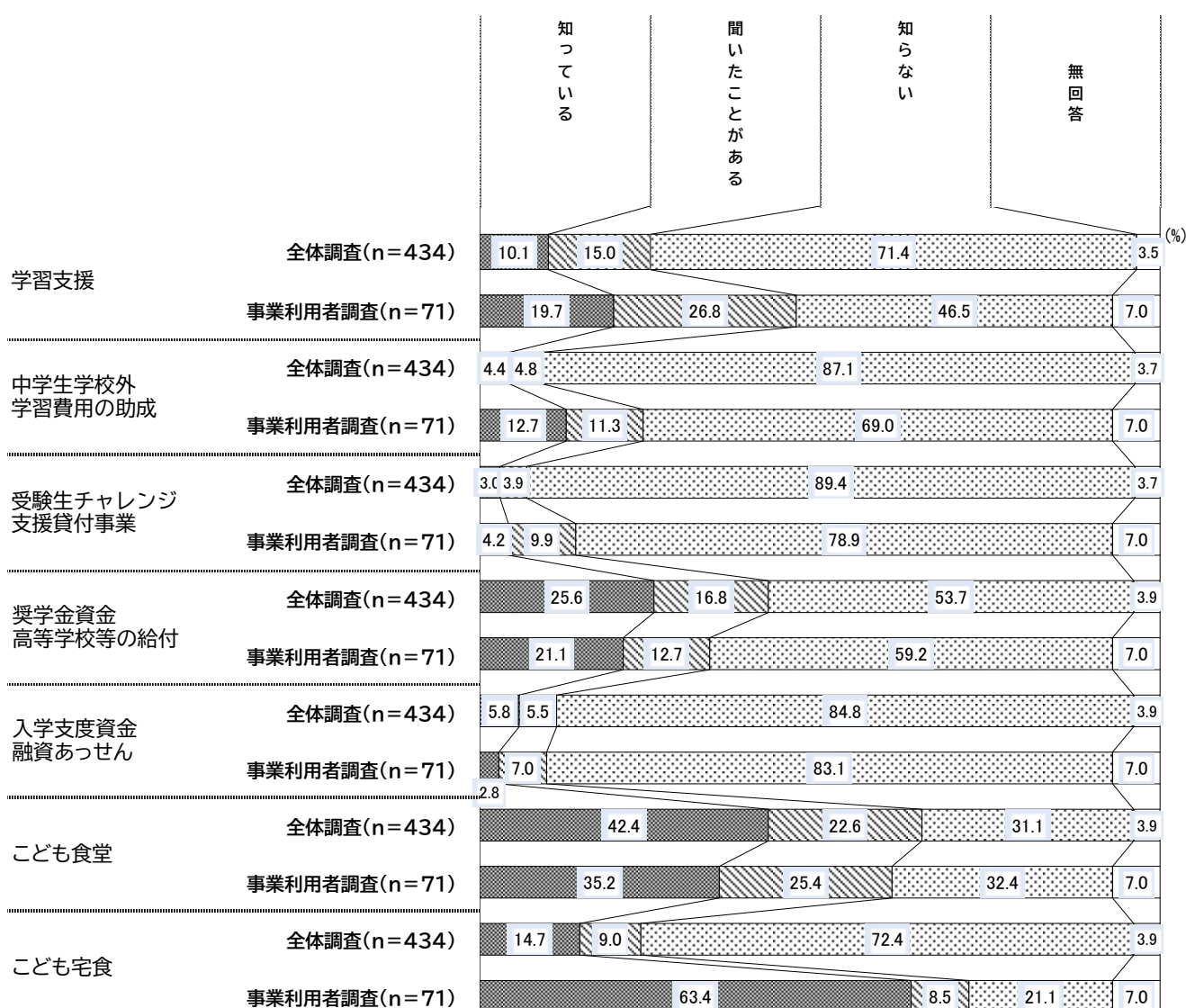


(2) 区実施事業の認知状況

【問】 文京区で行っている次の取組について、おたずねします。それぞれ、あてはまるものに○を付けてください。

区実施事業の利用状況を尋ねたところ、「知っている」は、全体調査では「こども食堂」が42.4%と最も多く、次いで「奨学金資金高等学校等の給付」が25.6%となっている。事業利用者調査は「こども宅食」が63.4%と最も多く、「こども食堂」が35.2%、「奨学金資金高等学校等の給付」が21.1%と続いている。

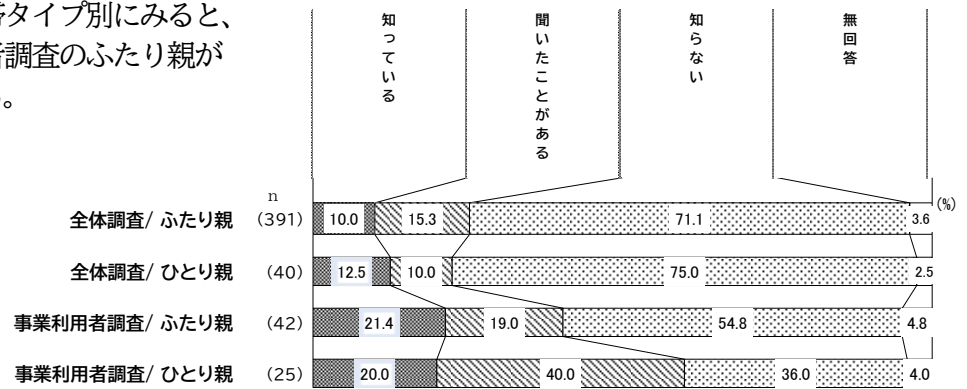
<図表 区実施事業の認知状況（全体調査・事業利用者調査比較）>



【1】学習支援 認知状況

学習支援の認知状況を世帯タイプ別にみると、「知っている」は事業利用者調査のふたり親が21.4%と最も多くなっている。

<図表 学習支援の認知状況 (世帯タイプ別)>

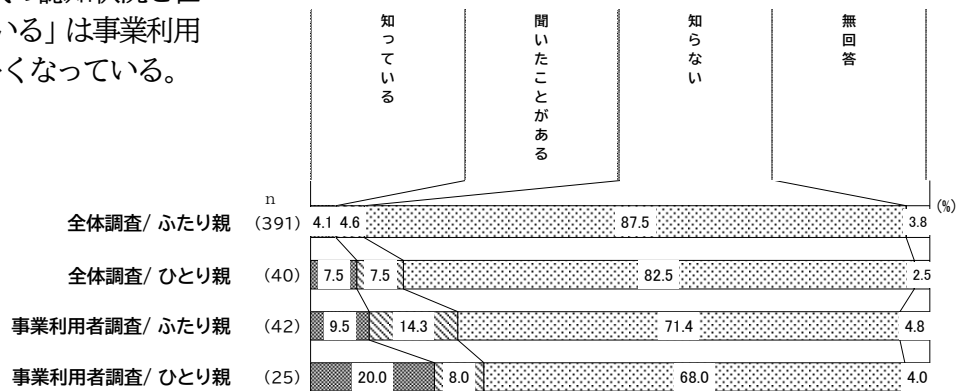


※事業利用者調査/ひとり親 (n=25)はサンプル数が30未満のため参考値として表示している

【2】中学生学校外学習費用の助成 認知状況

中学生学校外学習費用の助成の認知状況を世帯タイプ別にみると、「知っている」は事業利用者調査のふたり親が9.5%と多くなっている。

<図表 中学生学校外学習費用の助成 認知状況 (世帯タイプ別)>



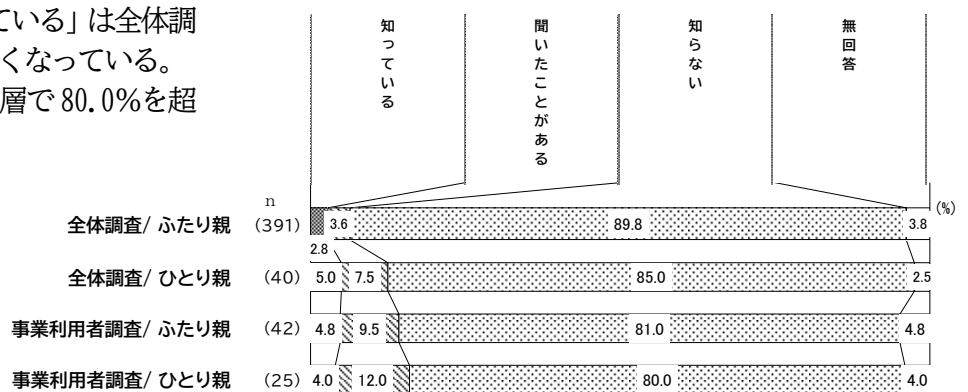
※事業利用者調査/ひとり親 (n=25)はサンプル数が30未満のため参考値として表示している

【3】受験生チャレンジ支援貸付事業 認知状況

受験生チャレンジ支援貸付事業の認知状況を世帯タイプ別にみると、「知っている」は全体調査のひとり親が5.0%と最も多くなっている。

一方、「知らない」はすべての層で80.0%を超えている。

<図表 受験生チャレンジ支援貸付事業 認知状況 (世帯タイプ別)>

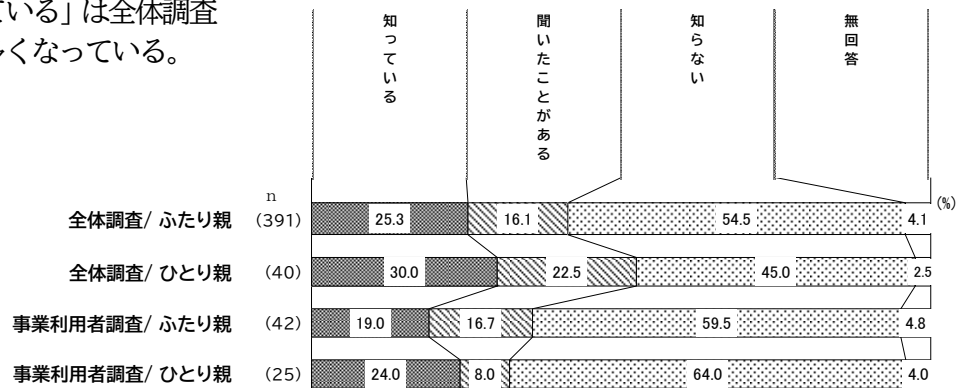


※事業利用者調査/ひとり親 (n=25)はサンプル数が30未満のため参考値として表示している

【4】奨学金資金高等学校等の給付 認知状況

奨学金資金高等学校等の給付の認知状況を世帯タイプ別にみると、「知っている」は全体調査のひとり親が30.0%と最も多くなっている。

<図表 奨学金資金高等学校等の給付 認知状況 (世帯タイプ別)>



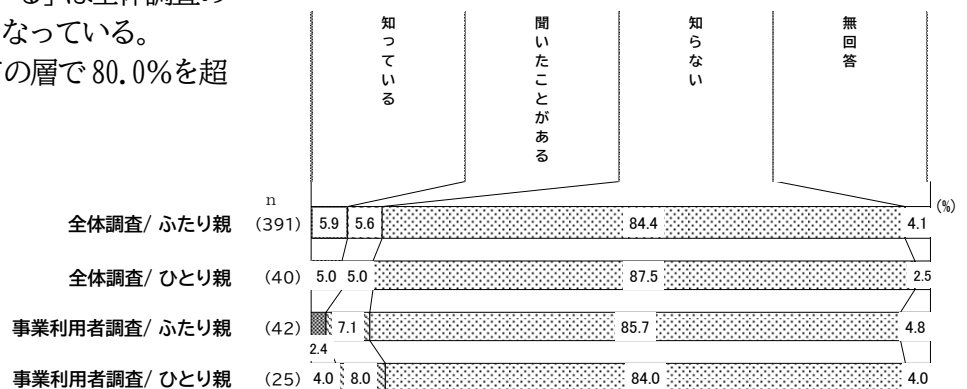
※事業利用者調査/ひとり親 (n=25)はサンプル数が30未満のため参考値として表示している

【5】入学支度資金融資あっせん 認知状況

入学支度資金融資あっせんの認知状況を世帯タイプ別にみると、「知っている」は全体調査のふたり親が5.9%と最も多くなっている。

一方、「知らない」はすべての層で80.0%を超えている。

<図表 入学支度資金融資あっせん 認知状況 (世帯タイプ別)>

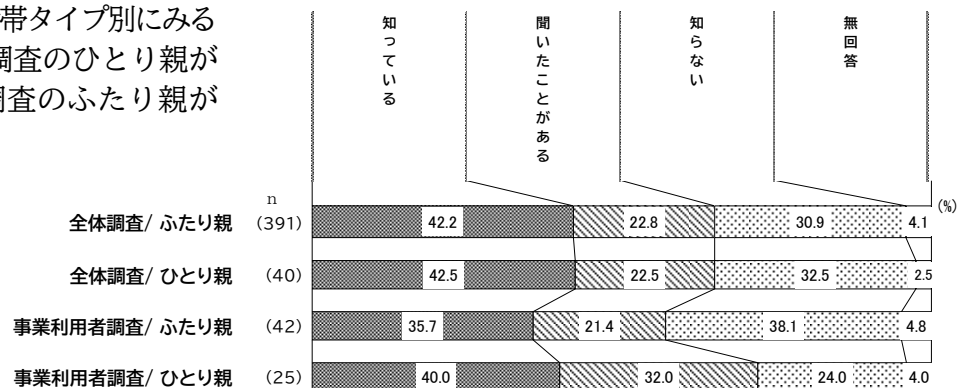


※事業利用者調査/ひとり親 (n=25)はサンプル数が30未満のため参考値として表示している

【6】こども食堂 認知状況

こども食堂の認知状況を世帯タイプ別にみると、「知っている」は全体調査のひとり親が42.5%と最も多く、全体調査のふたり親が42.2%と続いている。

<図表 こども食堂 認知状況 (世帯タイプ別)>

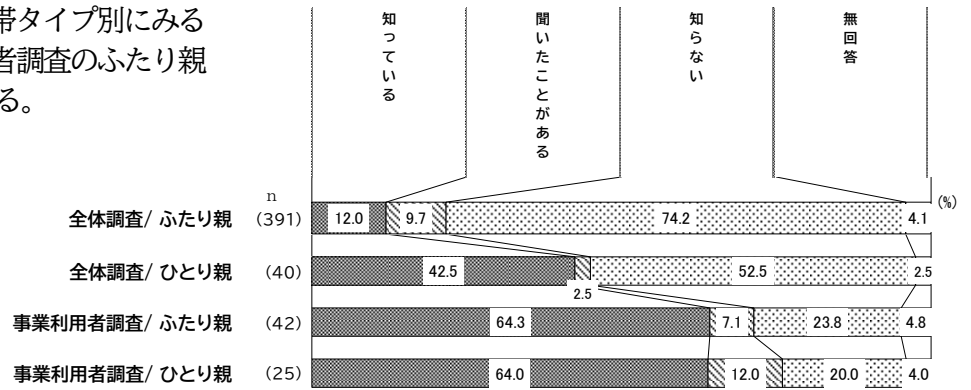


※事業利用者調査/ひとり親 (n=25)はサンプル数が30未満のため参考値として表示している

【7】こども宅食 認知状況

こども宅食の認知状況を世帯タイプ別にみると、「知っている」は事業利用者調査のふたり親が64.3%と最も多くなっている。

<図表 こども宅食 認知状況 (世帯タイプ別)>



※事業利用者調査/ひとり親 (n=25)はサンプル数が30未満のため参考値として表示している

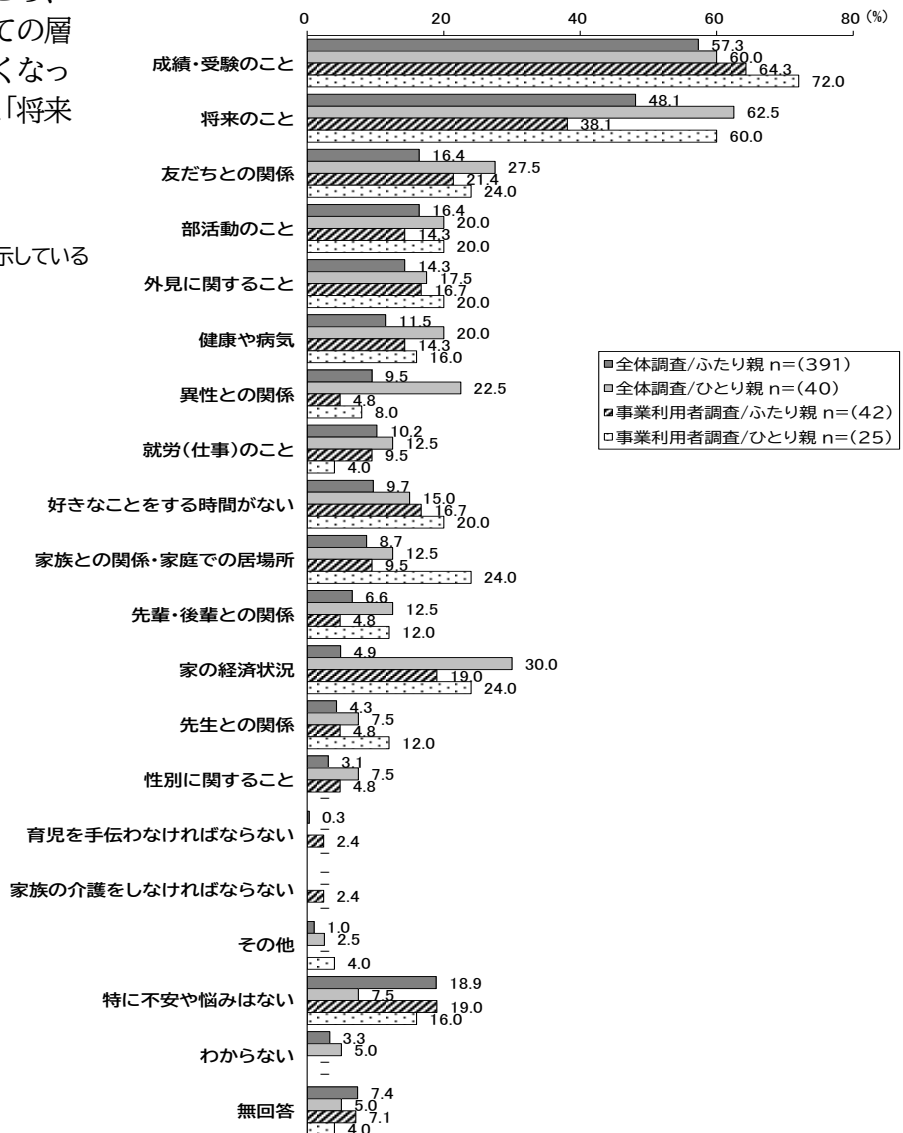
(3) 不安や悩みの有無

【問】あなたは今、不安や悩みはありますか。あてはまる答えの番号すべてに○を付けてください。

不安や悩みの有無を尋ねたところ、全体調査のひとり親以外のすべての層で「成績・受験のこと」が最も多くなっている。全体調査のひとり親では「将来のこと」が最も多くなっている。

※事業利用者調査/ひとり親 (n=25)はサンプル数が30未満のため参考値として表示している

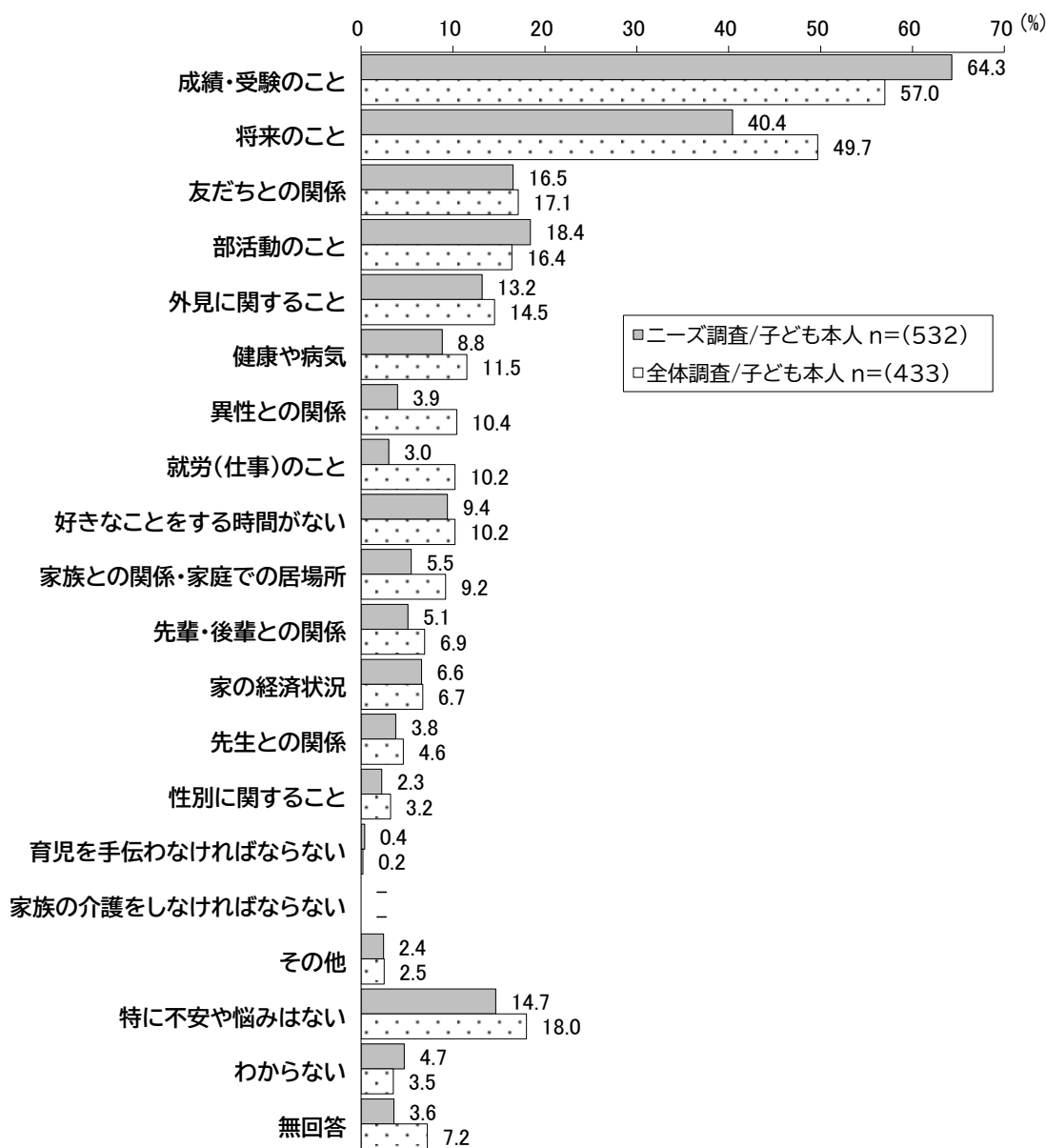
<図表 不安や悩みの有無 (全体調査・事業利用者調査比較)>



不安や悩みの有無について平成 30 年度実施のニーズ調査と比較したところ、全体調査の方がH30 ニーズ調査よりも「将来のこと」は9.3 ポイント増加しており、「就労（仕事）のこと」は7.2 ポイント増、「異性との関係」は6.5 ポイント増と続いている。

反対に、「成績・受験のこと」は7.3 ポイント減少している。

<図表 不安や悩みの有無（H30 ニーズ調査・全体調査比較）>

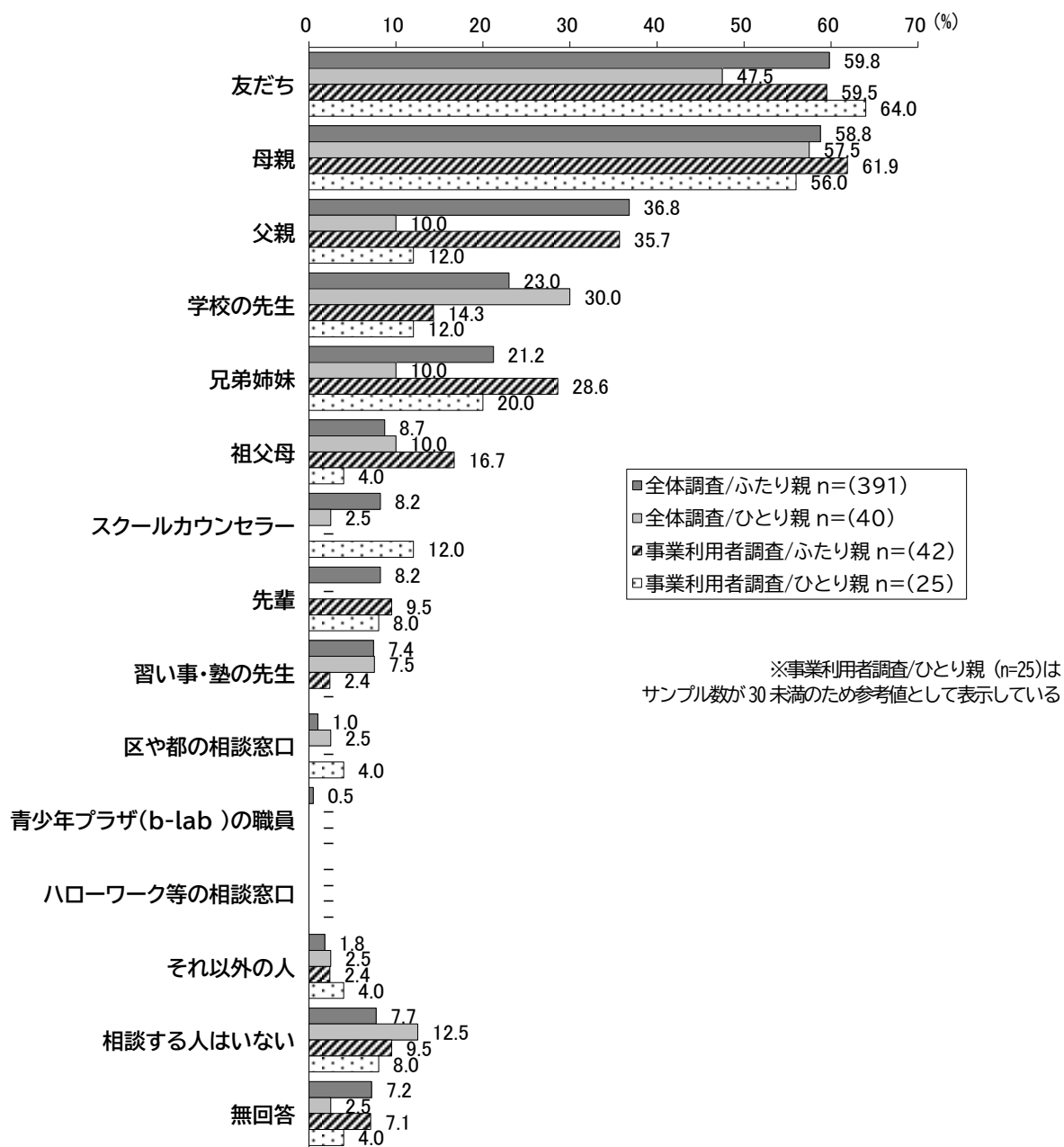


(4) 悩みごとや心配ごとの相談先

【問】あなたが悩みごとや心配ごとを相談するとしたら、誰に相談しますか。あてはまる答えの番号すべてに○を付けてください。

悩みごとや心配ごとの相談先を尋ねたところ、全体調査のふたり親では「友だち」が最も多くなっている。全体調査のひとり親と事業利用者のふたり親では「母親」が最も多くなっている。

<図表 悩みごとや心配ごとの相談先（全体調査・事業利用者調査比較）>

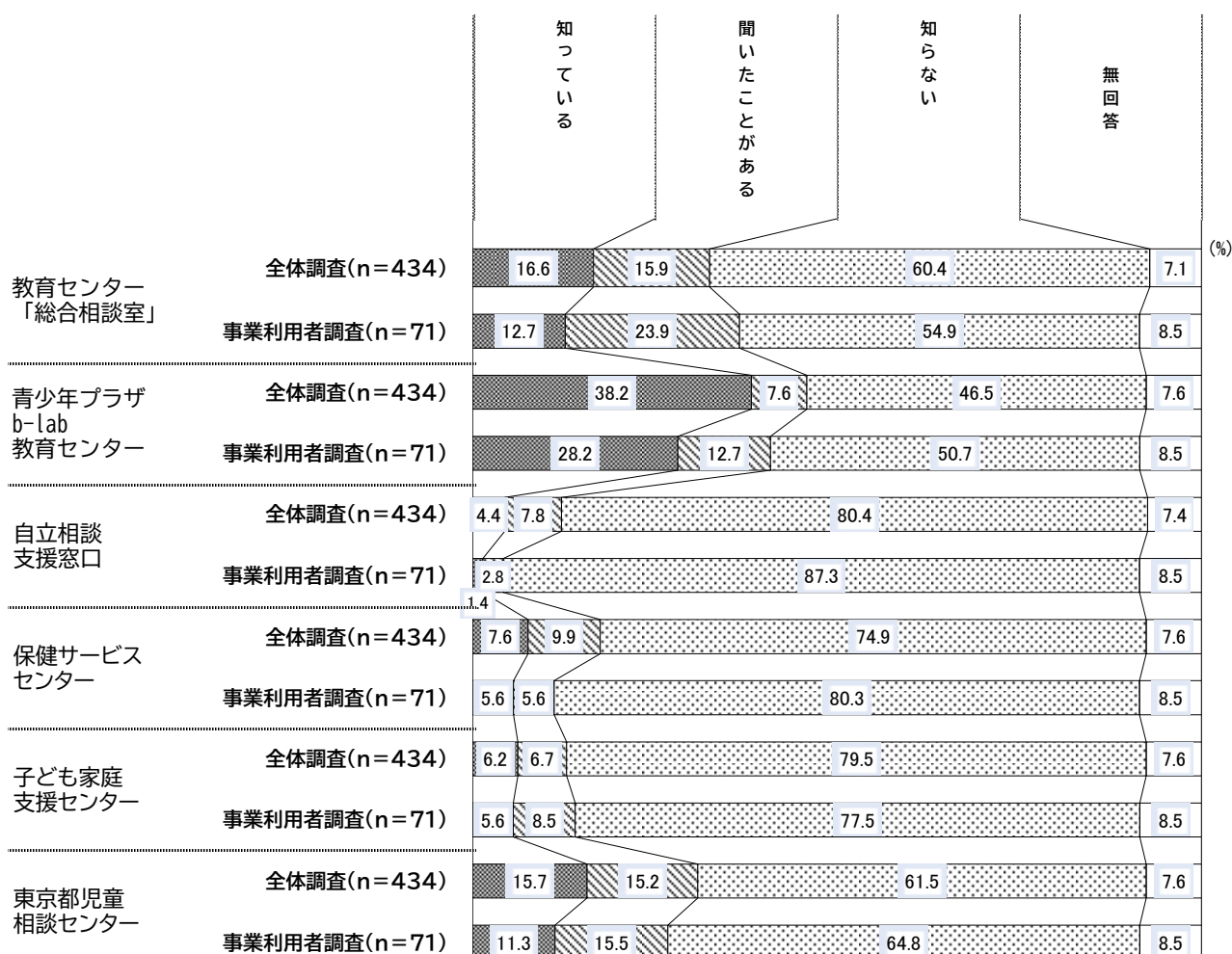


(5) 相談窓口について

【問】困ったときの相談窓口で、知っているもの、利用したいかどうか等を教えてください。それぞれあてはまるものに○を付けてください。

相談窓口の認知状況を尋ねたところ、「知っている」は、全体調査、事業利用者調査ともに「青少年プラザb-lab 教育センター」が最も多く、全体調査が38.2%、事業利用者調査が28.2%となっている。次いで「教育センター「総合相談室」」が全体調査16.6%、事業利用者調査12.7%、「東京都児童相談センター」が全体調査15.7%、事業利用者調査11.3%と続いている。

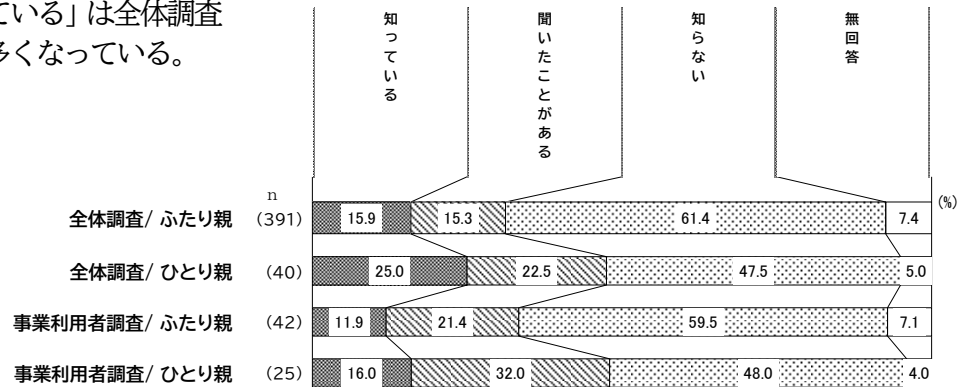
<図表 相談窓口の認知状況（全体調査・事業利用者調査比較）>



【1】教育センター「総合相談室」 認知状況

教育センター「総合相談室」の認知状況を世帯タイプ別にみると、「知っている」は全体調査のひとり親が25.0%と最も多くなっている。

<図表 教育センター「総合相談室」の認知状況（世帯タイプ別）>

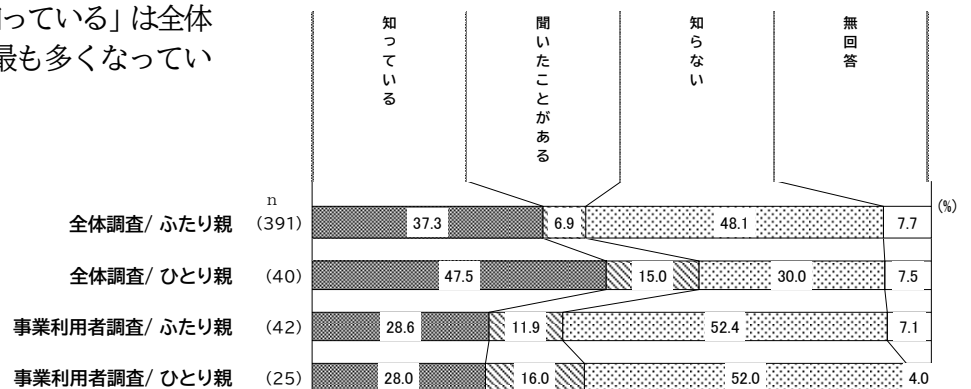


※事業利用者調査/ひとり親 (n=25)はサンプル数が30未満のため参考値として表示している

【2】青少年プラザb-lab 教育センター 認知状況

青少年プラザb-lab 教育センターの認知状況を世帯タイプ別にみると、「知っている」は全体調査のひとり親が47.5%と最も多くなっている。

<図表 青少年プラザb-lab 教育センター 認知状況（世帯タイプ別）>



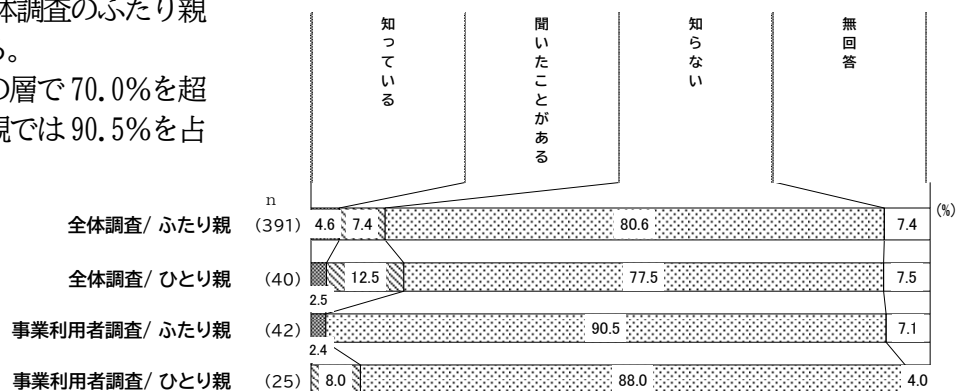
※事業利用者調査/ひとり親 (n=25)はサンプル数が30未満のため参考値として表示している

【3】自立相談支援窓口 認知状況

自立相談支援窓口の認知状況を世帯タイプ別にみると、「知っている」は全体調査のふたり親が4.6%と最も多くなっている。

一方、「知らない」はすべての層で70.0%を超え、事業利用者調査のふたり親では90.5%を占めている。

<図表 自立相談支援窓口 認知状況（世帯タイプ別）>



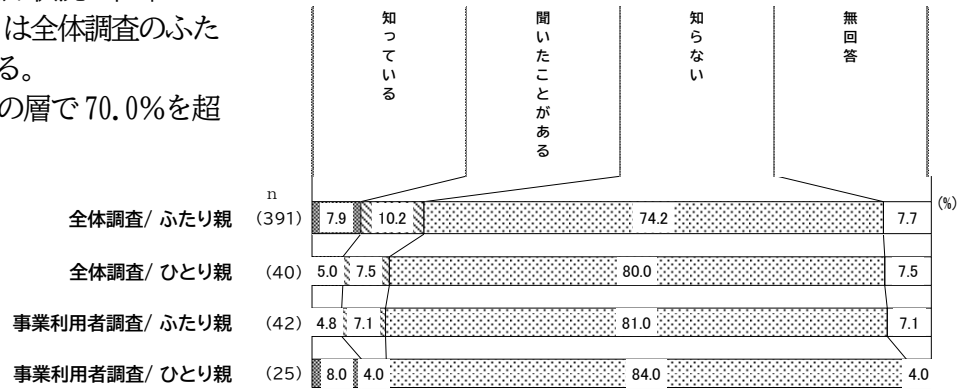
※事業利用者調査/ひとり親 (n=25)はサンプル数が30未満のため参考値として表示している

【4】保健サービスセンター 認知状況

保健サービスセンターの認知状況を世帯タイプ別にみると、「知っている」は全体調査のふたり親が7.9%と多くなっている。

一方、「知らない」はすべての層で70.0%を超えている。

<図表 保健サービスセンター 認知状況（世帯タイプ別）>

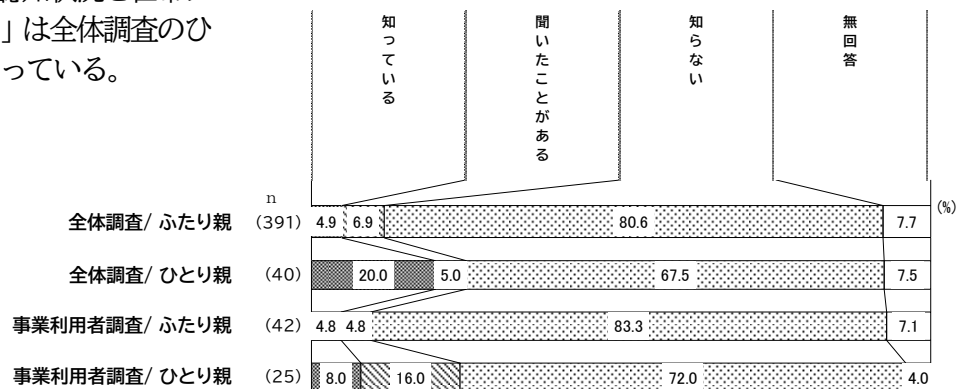


※事業利用者調査/ひとり親 (n=25)はサンプル数が30未満のため参考値として表示している

【5】子ども家庭支援センター 認知状況

子ども家庭支援センターの認知状況を世帯タイプ別にみると、「知っている」は全体調査のひとり親が20.0%と最も多くなっている。

<図表 子ども家庭支援センター 認知状況（世帯タイプ別）>

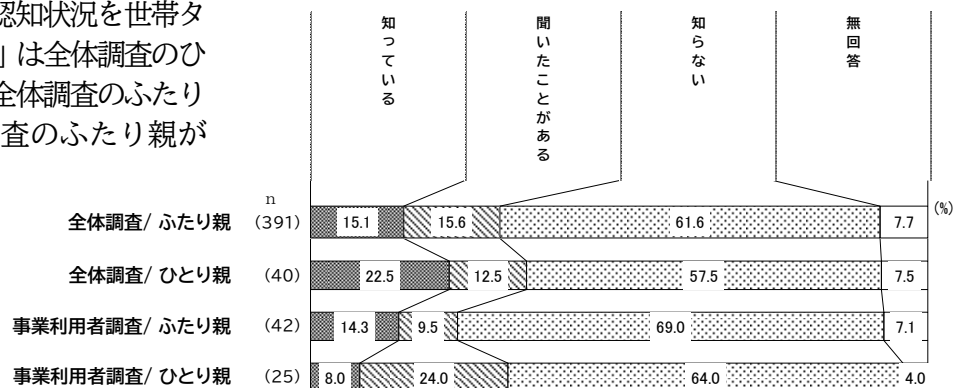


※事業利用者調査/ひとり親 (n=25)はサンプル数が30未満のため参考値として表示している

【6】東京都児童相談センター 認知状況

東京都児童相談センターの認知状況を世帯タイプ別にみると、「知っている」は全体調査のひとり親が22.5%と最も多く、全体調査のふたり親が15.1%、事業利用者調査のふたり親が14.3%と続いている。

<図表 東京都児童相談センター 認知状況（世帯タイプ別）>



※事業利用者調査/ひとり親 (n=25)はサンプル数が30未満のため参考値として表示している

第4章 資料（自由記載）

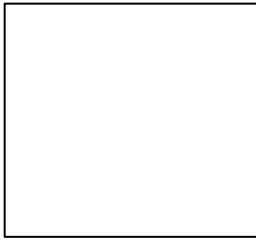
1. 自由記載

本調査の自由記載欄に記載されたご意見のうち、行政に対する要望に分類されるものは、整理したうえで、区のホームページ上に公表いたします。

区ホームページURL：

<https://www.city.bunkyo.lg.jp/kusejoho/profile/sosiki-busyo/kosodate.html>

区ホームページQRコード：



第5章 資料（調査票）

1. 使用した調査票

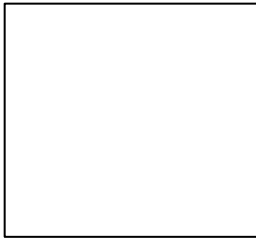
本調査で使用した調査票は、区のホームページ上に公表いたします。

なお、本調査の全設問項目の一覧表は、第1章 調査の概要（5ページ）に掲載しています。

区ホームページURL：

<https://www.city.bunkyo.lg.jp/kusejoho/profile/sosiki-busyo/kosodate.html>

区ホームページQRコード：



<自由意見（速報版）>

※自由意見回答人数：

全体調査（保護者）	： 495人	全体調査（子）	： 39人
事業利用調査（保護者）	： 76人	事業利用調査（子）	： 4人

■保護者の意見 571人回答（全体調査及び事業利用調査の合計）

・感謝	120
・支援の充実	115
・教育制度等の意見	75
・所得制限による意見	59
・公園、遊び場等の整備	46
・本調査について	39
・支援体制の周知	31
・地域との交流	11
・マスク、コロナ対策	9
・使用料	9
・学校施設整備	9
・保育園について	5
・不安	4
・その他	39

■子どもの意見 43人回答（全体調査及び事業利用調査の合計）

・周知の充実	9
・感謝	6
・支援体制の周知	6
・公園、遊び場等の整備	4
・本調査について	4
・学校施設整備	2
・相談体制	2
・その他	10

■保護者の意見（全体調査・事業利用調査から）

○感謝

- ・初めての子育てで必死な中、助けられた。
- ・子育て応援メールマガジンの配信でひとりじゃないという気持ちになれた。
- ・子ども宅食や子ども食堂などがありがたく、感謝している。
- ・在宅勤務が増え育児がストレスに感じている中、子育て施設に預けられて助かっている。
- ・良い環境で子育てできている。
- ・2歳以降のベビーシッター利用料助成制度に感謝している。

○支援の充実

- ・多子世帯に対する補助をもっと増やしてほしい。
- ・障害を持った子どもへの支援を手厚くしてほしい。

○所得制限による意見

- ・各補助金の年収制限を撤廃か緩和をしてほしい。
- ・中間世帯収入層にも手厚い支援をしてほしい。
- ・各種手当の金額を所得で減らされるのは納得できない。

○支援体制の周知

- ・今回のアンケートで知らなかった支援事業を知ることができて良かった。
- ・今回のアンケートで網羅的に乗っていた支援の内容をまとめて区報に掲載してほしい。
- ・知らない取組が多かった、広報を充分にしてほしい。積極的な情報発信をしてほしい。

○本調査について

- ・今回のアンケートで知らなかった支援事業を知ることができて良かった。
- ・今回のアンケートで網羅的に乗っていた支援の内容をまとめて区報に掲載してほしい。
- ・知らない取組が多かった、広報を充分にしてほしい。積極的な情報発信をしてほしい。
- ・質問項目が雑と感じた。
- ・設問が困窮者に偏っている。0歳児には当てはまらない設問が多々あった。
- ・アンケートが長いのもっとシンプルにしてほしい。
- ・調査はとても意義があると感じた。Web上で回答ができるのは良いが、年齢により質問項目に振り分けがあると良かった。
- ・スマートフォンしかないアンケートの回答がしにくい。紙がやりやすい。

■子どもの意見（全体調査・事業利用調査から）

○感謝

- ・金銭の支援はとてもありがたい。
- ・知らないことが多かったが、文京区は色々な支援を行っていると感じた。

○支援の充実

- ・子どもが困ったときに連絡できる一元化された電話番号や窓口が必要ではないか。
- ・文京区の取組に参加したり相談したりする上でハードルの高さを感じている。

○支援体制の周知の充実

- ・子どもたちのための取組、仕組みは知っていたが、具体的な施設や具体的な取組は知らなかった。もっと大きくPRした方がいいと思う。